

あなた！  
は地球人に

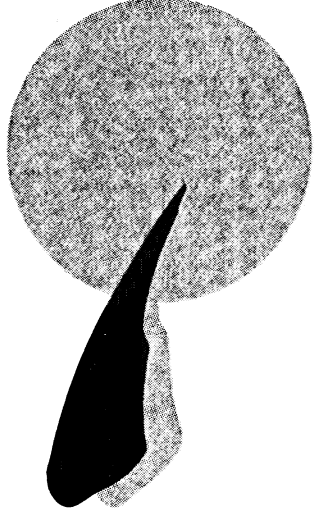
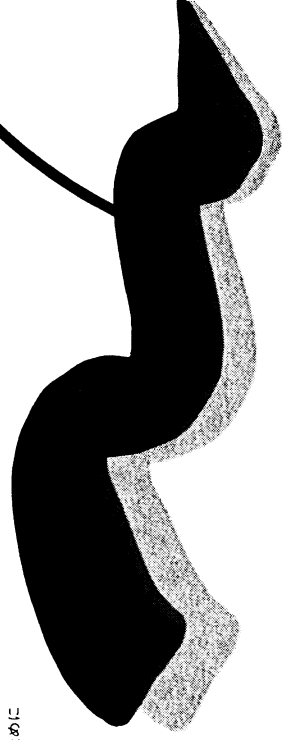
なれませうか

—• WORLD STUDIES

すぐに役立つ開発教育/ワールド・スタディ/国際教育ゲーム・教材集

学校現場・社会教育の現場での開発教育の実践のために

2



第2章 あなたは地球人になれますか 目次

1. 編集者より	1
2. グローバル・ビンゴ(ゲーム)小学校高学年～高校生	2
3. 神経衰弱-区別と差別(ゲーム)小学校高学年	5
4. B A F A B A F A-異文化理解(シミュレーション)中学生～高校生	7
5. 世界の食事-小学生版(シミュレーション)	10
6. 世界の食事-中学生・高校生版(シミュレーション)	12
7. ベーバ-バック・ゲーム(ゲーム)小学校低学年～高学年	17
8. 迷れてきた人たち-「難民」(ロールプレイ)小学校高学年～中学生	20
9. 観光開発(ロールプレイ)高校生	24
10. 援助(ランキング)高校生	33

編集者

編集・企画 大津 和子(兵庫県立東灘高校教諭)

- |          |       |
|----------|-------|
| 1.       | 大津 和子 |
| 2. 5. 6. | 佐野 伸樹 |
| 3.       | 北村 理  |
| 4.       | 志賀 照明 |
| 7. 8.    | 吉川 典子 |
| 9. 10.   | 藤原 孝章 |

# 1. 編集者より

現代の世界は「宇宙船地球号」と呼ばれます。日常の衣食住をはじめ、テレビや新聞のニュース、国境を越える人々の往来、科学技術の発達などどれ一つをとってみても、グローバルなネットワークなしには成り立ちません。それほどに地球社会における相互依存関係が深まっています。同時に、この地球社会は環境問題、エネルギー資源問題、平和問題など人類の生存そのものを脅かす問題に直面しており、これらの諸問題はグローバルな視野に立って対応しないかぎり克服は難しいという認識が、「宇宙船地球号」の語に込められています。

こうしたグローバル時代に、地球社会を一つのシステムとしてとらえ、諸問題の原因を追究し、その解決とよりよい世界建設のために積極的に社会参加できる、いわば地球市民的資質を育成することが、今強く教育に要請されています。従来の知識伝達（知識暗記）型の授業ではなく、学習者の多様な活動を通して、地球市民として必要な態度や技能を養うことのできる授業が求められているのです。

そこで、海外の教材をヒントにして日本の学校で活用できる教材をつくってまいりました。一クラス当たりの生徒数が多い、ディスカッションに慣れていない、といった状況を考慮しながら授業を構成し、資料を準備し、ディスカッションの手だてを考えました。何回もの討議を重ねるうちに、ほとんど原形をとどめなくなった教材もあります。実際に授業をおこなってみて、大幅に改良した教材もあります。実践に役立つ留意点を、できるだけ書き込みました。

本書の構成は次のようになっています。「グローバル・ビンゴ」では、ビンゴゲームを通じて、私たちの生活が世界の他の地域や国々と深くつながっていることを実感します。「神経衰弱——区別と差別」では、この地球社会に存在するさまざまな違いをとりあげ、それらを、あってよい違いと本来あるべきではない違いに分けることから、基本的人権について考えます。「B A F A B A F A——異文化理解シミュレーション」では、マイノリティとマジョリティの立場に身を置いて異文化理解の難しさを体験し、異文化理解の重要性を認識します。「世界の食事」では、食べ物の不平等な配分に直面して、慢性的飢餓状態にある人々への共感的理解を深めます。「ペーパーバグ・ゲーム」では、紙袋づくりのゲームを通じて、発展途上国の人々が失業のためにどのような苦しみ、協力しながら生計を立てているかを知ります。「逃れてきた人たち——「難民」」ではピクチャーアナリシス（写真分析）とロールプレイにより、「難民」問題に対する関心を高めます。「観光開発」では、発展途上国における観光開発がもたらすメリットとデメリットを多様な立場から検討することにより、南北問題の一つの側面を明らかにします。「援助」では、発展途上国に対する種々のタイプの援助にリンクを付けることから、望ましい援助のありかたを考えます。

この教材集を一つの踏み台として、もっともっと面白い授業がつくられていくなら、これほどうれしいことはありません。

1990.2.22 編者一同

# 2. グローバル・ビンゴ

(ゲーム)

## 1. ねらい

ビンゴゲームに似た用紙を使って競争しながら、身の回りの外国文化や外国製品、外国との交流などを探し出させる。それによって、自分たちの生活が深く世界の他の地域や国々とながっていることを認識させる。ゲームには二つのタイプがあり、Aタイプは、自分の生活と外国とのつながりを見つけることが中心になる。Bタイプは学級の仲間の中で外国とのつながりを持つ者を数多く見つけようとするもので、互いの自己紹介や、文化的、社会的なバックグラウンドを知ることにも役立つ。

いずれも、国際理解教育(開発教育)の入門期に、特にBタイプは、学年始めの学級に通じている。

## 2. 対象 小学校高学年～高校生

## 3. 時間 45～50分

## 4. 準備

ビンゴシート、必要であれば練習用シート(人数分)

## 5. 導入

ゲーム前の意識を探ると共に、意欲を高める。

発問(Q)・指示(P)	予想される答え
Q1 あなたたちの生活は、外国とのつながりがあると思うか。	ア. 深いつながりがある イ. 少したながりがある

Q2 外国とのつながりをたくさん持っている友達がいるだろうか。	ウ. あまりつながりはない Aさんはタイに住んでいたことがあ る。B君はアメリカ人と文通をして いる。
---------------------------------	--

### ○留意点:

あまり時間をかけずゲームへの意欲を高める程度にする。Q1の回答については人数を調べておきゲーム後と比較すると意識の変化がわかる。

(所要時間10分)

## 6. 展開

(1)ゲームを通して、身の回りの外国と関係のある事物や人物を数多く発見させる。

### ○ゲームの手順と要領

Aタイプの場合:

- ①教師の合図で、ビンゴシートの各マスに自分で当てはまる事項を書いていく。
- ②1分間経ったら、教師はそのことを告げる。
- ③参加者は、自分で書き入れられなかったマスを埋めている他の生徒を見つけて、そのサインをマスに書いてもらうことができる。
- ④このようにして空欄を埋め、ビンゴ(縦、横、斜めのうちいずれか1列がそろう)になれば、「ビンゴ」と叫んで、教師のところに持っていく。
- ⑤教師はシートに生徒の順位を記入する。
- ⑥順位が決まった後でもできるかぎり空欄を埋めるようにさせる。

Bタイプの場合:

- ①教師の合図で、ビンゴシートの各マスの中に当てはまる自分以外のクラスメートにサインや当てはまる事項を書いてもらう。

- ② 3分ごとにゲームを区切って、リズム感や緊張感が生まれるようにする。  
 ③ 後は、Aタイプの④～⑥と同じようにする。

○留意点：

Aタイプの場合は、なるべく自分で書くようにさせる。また、A、Bとも他人に書いてもらう場合は、できるだけ多くの人に書いてもらうようにさせる。

- (所要時間 20分)
- ② ゲームを通して気付いたことを話し合っ、自分たちの生活と外国とのつながりについて考えさせる。

ことによりこのゲームによる認識の深まりを確かめる。

(所要時間 15～20分)

小学校5年生の児童を対象に実践してみた。ゲームのルールが分かり易く、意欲的にシートを埋めていた。後の話し合いの中では、意外に自分たちの身の回りに外国とつながりがある物が多いことに驚きの声が上がっていた。

<p>Q3 どれぐらいマスが埋まったか。          Q4 残ったのはどのマスか。</p>	<p>全部。ほとんど。あと5つ残った。          「外国から運ばれてきたものを今日使った。」というマス。          ノートや消しゴム。原料は、外国から運ばれてきたものだから。          服に英語が書いてある。          外国からお客さんがきたことがある。</p>
<p>Q5 そのマスを埋めた人はいないか。</p>	
<p>Q6 シートに書いてあること以外で、あなたたちの身の回りに外国とつながりのあるものがあるか。</p>	
<p>P7 ゲームをして、自分たちの生活と外国とのつながりについて気付いたことをボンゴシートの下の欄に書きなさい。</p>	
<p>Q8 (最初と同じことを聞く。) あなたたちの生活は、外国とのつながりがあるか。</p>	<p>ア. 深いつながりがある          イ. 少しつながりがある          ウ. あまりつながりはない</p>

○留意点：

Q4、Q5によって、特に、埋めにくかったマスを取り上げて考えることにより、すべてのマスを埋めることができることに気付かせる。Q1とQ8の結果を比べる

グローバル・ビンゴ (A) 名前

外国語であいさつを3つ以上言える ( ) ( ) ( )	外車に乗ったことがある この国の車か ( ) ( ) ( )	外国に行ったことがある この国か ( ) ( ) ( )	外国から手紙が来たこと ある この国から ( ) ( ) ( )	家に外国製品がある どんな物か ( ) ( ) ( )
証、外国のニュース、 貼り、雑誌、別れた ことがある、どんな なニュースか ( ) ( ) ( )	外国から運ばれてきたものを、 今日使った。何を? ( ) ( ) ( )	日本以外で作られた服(衣類)を持って いる どんな服か ( ) ( ) ( )	外国で生まれた友達を知っている 誰か。 ( ) ( ) ( )	イタリア料理を食べたこと がある どんな料理か ( ) ( ) ( )
今日食べた物の中に、 外国で取れたものがある 何を食べた? ( ) ( ) ( )	プロ野球の外国人選手を 3人言える 誰か ( ) ( ) ( )	おまけ 今一番行ってみたい国を 書きなさい ( ) ( ) ( )	外国で生まれたスポーツを したことがある。何か? ( ) ( ) ( )	外国の人とあいさつか握手をしたこと がある。 この国の人か ( ) ( ) ( )
親戚が外国に住んでいる。 この国か ( ) ( ) ( )	外国の人が出ているCMを知っている。 何のCMか ( ) ( ) ( )	マクドナルドのハンバーガーを食べたこと がある。 どこで? ( ) ( ) ( )	ティズニードンへ行っ たこと がある いつ? ( ) ( ) ( )	日本に一番近い外国は? ( ) ( ) ( )
家族が外国に行ったこと がある。 どこへ? ( ) ( ) ( )	外国で作られた歌を 歌ったこと がある。 曲名は? ( ) ( ) ( )	外国のコインや切手を持 ている。 どの国か ( ) ( ) ( )	アジアの国の料理を 外で食べたこと がある。 どんな料理? ( ) ( ) ( )	外国の物語を知っている。 どんな物語? ( ) ( ) ( )

\*\*このゲームをして、気づいたこと、わかったことは.....

Global Bingo (B)

Name \_\_\_\_\_

- Find, and gain the signature of someone who:
- Fill the blank with proper words:

can greet in three languages. What? 1. 2.	has ridden in a foreign car. What? 1. 2.	has visited one other nation. What? 1. 2.	has received a letter from overseas. What? 1. 2.	can name any product in their home from overseas. Where from? 1. 2.
has read or watched news about foreign nations. What? 1. 2.	has stayed in their friends' home in a foreign country. What? 1. 2.	is wearing an item of clothing made outside Japan. What? 1. 2.	was born outside Japan. His name? 1. 2.	has made a phone call to another country. Where from? 1. 2.
owns an overseas watch or other accessor. What? 1. 2.	can name three international airlines. What? 1. 2.	FREE Put the name of your favorite country. 1. 2.	has eaten in a Chinese restaurant. Where? 1. 2.	has eaten food from the Philippines. What taste? 1. 2.
has relatives in another country. Where? 1. 2.	has shaken hands with anyone from overseas. What nation? 1. 2.	can name two baseball players from overseas. Who? 1. 2.	owns overseas sport gear. What? 1. 2.	has eaten a hamburger in Macdonalds. Where? 1. 2.
can name two products from USA. What? 1. 2.	can name two overseas rock groups. What? 1. 2.	has a member of their family who has been overseas. Who? 1. 2.	can name one foreign author. His name? 1. 2.	has had a friend stay in their home. Who? 1. 2.

From this game I've learnt that.....

# 3. 神経衰弱

— 区別と差別 —  
(ゲーム)

## 1. ねらい

現実の世界にはさまざまな差異が存在する。生活様式や伝統、価値観などを合む文化的差異が存在することは、むしろ人類の文化を豊かにするものであるが、経済的格差や政治的権力、あるいは偏見によって生みだされる差別や不平等については、これをなくしていかなければならない。

ここでは、生徒の身近にあるさまざまな違いをとりあげ、それらを「あっていい違い」と「あってはならない違い」に分けることから、差別と不平等について考える。

## 2. 対象 小学校高学年

## 3. 時間 1 時間

## 4. 準備 ( 教師 )

- ① カード用の紙 ( B 5 の半分の大きさを人数分 )
  - ② 「あっていい違い」と「あってはならない違い」を記したプリント準備
- 準備 ( 生徒 )

- ① サインペン
- ② クレパス

## 5. 授業展開

### 【カード作成】

- ① 数人ずつのグループに分かれ ( できれば 5 人がよい )、グループごとに机を寄せて坐る。
- ② 1 人 4 枚ずつ、カードを作成する。プリント資料 ( 次頁 ) を見ながらカード

に 1 つずつ文章を書き、できればそれにふさわしい絵も書く。

### 【神経衰弱ゲーム】

③ カードを裏返して机上に並べ、神経衰弱ゲームをする。ジャンケンをして勝った人から、1 回に 2 枚ずつカードをめくる。2 枚とも「あっていい違い」または「あってはならない違い」であれば、その人の得点になる。2 枚が揃わなければ、カードを裏返して元の場所に戻す。カードをめくるのは 1 回につき 2 枚だけとし、少なくとも 1 人 2 回以上めくれるようにする。

「あっていい違い」であるか「あってはならない違い」であるかについてグループ内で意見が分かれるカードは、表を向けて場に置いておく。

裏向きのカードがなくなるまでゲームを続ける。

### 【デイスカッシュョン】

④ ゲーム終了後、グループごとにカードを「あっていい違い」「あってはならない違い」「どちらともいいがたい」の 3 種類に分ける。

⑤ まず「あっていい違い」であると判断したカードを、グループごとに発表させる。グループによって判断が分かれたカードがあれば、あとでデイスカッシュョンの材料にするためにそのカードの文章を黒板に書いておく。

⑥ 「あってはならない違い」についても同様に、グループによって判断が分かれたカードの文章を黒板に書く。

⑦ 各グループで「どちらともいいがたい」カードとして残ったカードの文章も、黒板に書く。

⑧ 黒板に書かれた文章について、生徒の意見を聞きながらひとつずつ検討していく。そして、なぜ「あっていい違い」あるいは「あってはならない違い」といえるのか、その根拠を生徒にわかりやすく説明する。「どちらともいいがたい」( どちらともいえる ) カードについては、その背後にある異なる考え方について説明する。

⑨ 最後に「あっていい違いとあってはならない違いについて」という題で、生徒に作文を書かせる。後日、作文のいくつかを生徒に紹介し、さらに議論を深める。

## 6. プリン ト 資料

(生徒に配布するときはa～qの順をバラバラにして書く)

「あっていい違い」の例

- a 男の子はスホンをはいていて、多くの女の子はスカートをはいている。
- b 雪絵さんはテレビの歌番組が好きで、弘君はマンガ番組が好きだ。
- c 明君はファミコンのドラクエに夢中で、千恵さんは本を読むのが大好きだ。
- d 正行君は野球が得意で、洋子さんは水泳が得意だ。
- e 圭子さんは絵を描くのが上手で、秀一君は字が上手だ。
- f 日本人は箸で食べ、インド人は手づかみで食べる。
- g イギリス人は皮膚の色が白く、ケニア人は黒い。
- h あいさつのときに日本人はお辞儀をし、アメリカ人は握手をする。
- i 日本人の子どもは洋服を着、日本に住む韓国人の子どもがチマ・チョゴリを着る。

「あってはならない違い」の例

- j 友子さんは給食のみかんを2個もらい、健君は1個もらった。
- k 日本人の子どもは給食を食べ残し、バングラデシュの多くの子どもは食事は1日2回である。
- l 日本人の子どもは学校で勉強し、タイには学校に行かず働いている子どもが多い。
- m 金持ちの立候補者はたくさんのお金と人を使って選挙運動をし、お金のない立候補者は少人数で地味な選挙運動をする。
- n 同じ工場と同じ仕事をしている日本人の月給は20万円で、フィリピン人は10万円である。
- 「どちらともいいがたい」例
- o 日本の小学校の休みは日曜日で、イギリスの学校の休みは土曜日と日曜日である。
- p 落合選手の1年間の給料は1400万円で、長島選手は800万円である。

- q お父さんは会社で仕事をし、お母さんは家で料理や洗濯などの仕事をしている。

## 7. 留意点

「あってはならない違い」については、視点によって意見が異なる場合があるが、貧富の大きい格差、性、外国人などに関する不平等や差別に気づかせる例を豊富にあげたい。

なお、カードの文章はクラスの生徒の状況に応じて変えることができる。生徒の個性を互いに認め合う雰囲気をつくるためにも有効である。



# 4. BAFA BAFA

—異文化理解—  
(シミュレーション)

## 1. ねらい

2つの国に分かれ、それぞれ違う文化の中で暮らし、後に、相手国を訪問する。自分が異文化の中に入った時、どのように感じるか、を実際に体験するのがこのシミュレーションのねらいである。

## 2. 人数 12～50人（それ以上でも可能）

## 3. 対象 小学校中学年～一般（特に高校生）

## 4. 所要時間 50～120分

## 5. 準備

2部屋、カード(KA～K0の記号及び無印のもの各5色)、ガムテープ

## 6. リーダー 4名必要

- (1)全体の解説者兼タイムキーパー
- (2) $\alpha$ 国の説明者
- (3) $\beta$ 国の説明者
- (4) $\beta$ 国の銀行

## 7. 授業展開

- (1)同数ずつ2グループ、 $\alpha$ 国と $\beta$ 国に分かれる。
- (2) $\alpha$ 国の人々はいつも陽気で会話を楽しみ、お互い接触するのが好きである。

また、女性が尊重され女王がいる。

(3) $\beta$ 国の人々はあまり話もせず、笑いもない。

ビジネスライクで出世し、もうけることを夢みている。

お互い $\beta$ 語でしかしゃべらない。

(4)自分の国の文化（ルール）に慣れたところで、相手の国に観察者を出し合う。相手国がどのようなルールでプレイしているのかを観察し、帰国して皆に報告する。

(5)次に3回に分けて、お互いに訪問者を交換する。

訪問者は相手の国の人々と交流できるが、質問はできない。

シミュレーションに参加することができるが、このとき自分の国のカードを訪問国に持ち込む。

(6)全員が相手国に行ってきたところで、みんな一堂に会し、相手の文化（シミュレーションのルール）の特徴や、その国に行った感想を話し合う

## 8. タイムテーブル

- (1)2グループに分けるまで 5～10分
  - (2)各国での文化の説明と実施 20～30分
  - (3)観察者の交換と報告会 5分
  - (4)第1次訪問者（人口の1/3） 5分
  - (5)第2次訪問者（人口の1/3） 5分
  - (6)第3次訪問者（人口の1/3） 5分
  - (7)シミュレーションの感想を書かせる 5～10分
  - (8)討議 15～40分
- ロスタイム（交換、集合） 10～20分  
計 50～120分

討議をしなければ50分の授業内ですることは、可能である

## 9. 文化・ロールの説明

### α国の文化

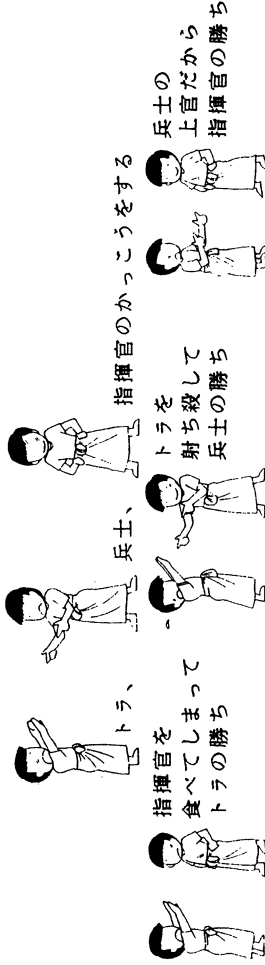
- (1)常に笑いをたたえ、陽気でおしゃべり好きである。
- (2)外国人に対しては親切で友好的である。
- (3)お互いの友好を深めるため、カードを賭けて取り引きする。  
(但し、勝負は関係ない。)
- (4)取引の方法

[ 1 ] カードを賭ける。(枚数は何枚でも)

[ 2 ] 交換したい2人があったら、α国のあいさつの言葉「へけへけ」をお互いに言う。

[ 3 ] αじゃんけん(ビルマじゃんけん)をする。

グー、チョキ、パーのかわりに下図のようなかっこうをする



[ 4 ] 勝者はカードを全部とる。

(5)女尊男卑であり女王が1人選ばれる。序列は 女王 > 女性 > 男性

(6)男性は女性に話しかけることはできない。

女性は誰にでも話しかけられる。

もし、男性から話しかけられたらニコニコして無視する。

(7)特に男性が女王に話しかけることは大変失礼なこととされ、近くにいる別の男性がその人を捕まえて「ドーマ、ドーマ」と言いながら部屋の外に連れ出す

(8)もし取引に負け続け、カードがなくなってしまうたら、女王のところへ行き

せいいっぱいお世辞を言う。(この時だけ男性も女王に声を掛けられる。) そうすると女王はカードを何枚かその人に与える。

### β国の文化

- < 1 > β語以外ではしゃべれない。
- < 2 > 笑うことはたいへん卑しいこととされている。
- < 3 > 競争社会、立身出世型の社会である。

腕にガムテープをたくさん貼っている人がお金持ちで、階層が上である。

< 4 > 外国人に対して排他的で、非友好的である。

< 5 > カードを交換して取り引きする。

カードの色と呼び名(β語)

オレンジジ・・・オ 緑色・・・ミ

黄色・・・キ 青色・・・ソ

赤色・・・ア

< 6 > 取引の方法

(1)交換したい2人が会ったら β国の挨拶の言葉「コニコニ」をお互いと言う。

(2)交換してもらいたいカード(欲しいカード)をβ語で言う。

(例)「オカオカ」(オレンジのKA)

(3)相手はそのカードがあれば渡し、なければ任意のカードを渡す。

(4)相手方も同じ事をする。

(5)相手が言ったことを繰り返して欲しい時は、腕を水平に縦に振る。

(6)別れるとき、腕を上にあげる。

< 7 > カードを集め、同じ色でKAからKUまでを揃えて役を作る。

< 8 > 銀行に持って行き、役と交換に、腕にテープを貼ってもらい新しいカードをもらう。

< 9 > 無色のカードはオールドマイティで、その色の何にでも使える。

< 10 > KUとKOのカードが少なくなっている。

α国の訪問者のカードで補うこともできる。

## 10. ディスカッション(感想文)の項目

- (1)相手国の文化は何であったか
- (2)それぞれの訪問者はどんな様子であったか
- (3)自分が訪問してどんな感想を持ったか
- (4)自分の国はどんな文化か相手に説明する
- (5)どちらの国に住んでみたいか
- (6)シミュレーションから何を学んだか

## 終わりに

- (1)文化の多様性と普遍性 自文化理解と異文化理解の重要性をシミュレーションの中で体験できる
- (2) $\alpha$ 国  $\beta$ 国の文化については、集団に応じて自由に作ることが出来る  
またシミュレーションも手を加えることができる
- (3)50分の授業内では、ディスカッションを次の授業にまわし、さらに訪問の回数を2回にする。
- (4)高校の授業では、現代社会、地理、世界史の文化学習や人権学習の導入としてこのシミュレーションを利用すれば有効であろう

## 参考文献

- (1)「BAFA BAFA」  
539 University of Oregon, Simulation, Los Angeles, 1983
- (3)「神戸国際青年平和会議 報告書」  
(1989 11 22~25, 神戸YMCA)

# 5. 世界の食事

—小学生版—  
(シミュレーション)

## 1. ねらい

広く世界をおおう慢性的飢餓の解決は、人類の大きな課題の一つである。小学校の児童は、アフリカなどに貧しく飢えた人々がいることは漠然と知っているが、どれだけ多くの人々が十分な食事をとれないでいるか、また、その人たちがどんな物を食べているのかということについては理解していない。そこで、不平等な食料配分を学級内で模擬体験することにより、慢性的飢餓状態におかれている人々への共感を深める。さらに、その生活への影響について、資料に基づいて考察させることをねらいとする。

## 2. 対象 小学校高学年

## 3. 時間 2 ～ 3 時間

## 4. 準備 ( 教 師 )

- 1 学級を6つのグループに分けた場合
  - ① 6ヶ国の国別資料 (後出)
  - \* 各グループの児童に模造紙などに記入させてもよい。
  - ② 6ヶ国の人々の生活の様子のわかる写真、本、スライド、ビデオなど
  - ③ 6ヶ国の立て札
  - ④ 掲示用世界地図
  - ⑤ 感想等を書くワークシート
  - ⑥ 国を決めるクジ
  - ⑦ 食べ物、食器 (メニュー例参照)、ナイフ (食べ物に分けるのに必要であれば)
- \* 食べ物にはグループごとに大皿に盛る。中所得、先進国グループには、個人の食器も与える。

## 準備 ( 児童 )

- ① 地図帳
- ② コップ、ナプキン

## 5. 導入

- ① グループごとに違った国の食事を食べて、世界食糧問題について話し合うことを告げる。
- ② 各グループの代表にクジを引かせて、どの国の食事をするか決める。  
\* 低所得国3、中所得国2、先進国 (日本) 1グループの割合に分ける。
- ③ 各グループにその国の位置を地図上で確かめさせ、人々の生活の様子がわかる写真、本などを渡す。
- ④ 6ヶ国の国別資料をみんなが見えるところに掲示する。

### ○ 留意点 :

食事をする前に自分たちの国の様子について予備知識を持たせ、その国のイメージを描きながら食事ができるようにする。 (所要時間25分)

## 6. 展開

- (1) 各国の食事を食べさせ、その間、自分たちがとった言動や抱いた感情を記録させる。
- ① グループごとに机を並べて、国名の立て札を置く。
- ② グループごとに食べ物を取りにこさせる。
- ③ 配り終わったら、「召し上がれ。」と、合図をする。
- ④ 10～15分経ったら食事の時間を打ち切る。  
\* 給食を利用した場合は、残りを平等に食べさせる。
- ⑤ 食べ物配られてから、とった言動や抱いた感情をワークシートに書かせる。

- 留意点：  
 児童が食べている間の言動をよく観察し、話し合いで取り上げるべきことを見つけておくようにする。グループ同士の食べ物のやりとりが全くない場合は、やりとりをしてもよいことを告げてよい。（所要時間30分）  
 ②各グループごとに記録したことを発表させ、各国の人々の思いに気付かせる。

発問(Q)・指示(P)	予想される答え
P1 食べ物が少ない国の人から、自分たちのしたこと、思ったことを発表しなさい。	不公平だと思った。 同じ物ばかりで嫌だった。 他のグループ、特に先進国はぜいたくだ。もらいにいたら、余った分しか分けてくれなかった。 低所得国よりはまじだったが、おかずが少なかった。先進国がうらやましかった たくさんあったのでうれしかった。 全部食べられるかなと思った。 少し分けてあげた。
Q2 先進国(日本)の人達はどうか ったか	

- 留意点：  
 低所得国では、食料が量的にも劣っており、不公平感を強く感じることに気付かせる。  
 ③低所得国での、食料不足が人々の生活に及ぼす影響について考えさせる。

Q3 毎日こんな食事をしていたらどうなるだろう。	病気になってしまう。
Q4 資料で確かめてみよう。	小さい子供がたくさん死んでいる。

Q5 他にも困っていることはないだろうか	平均寿命もとても短い。栄養が足りないからだ。 読み書きできない人も多い。学校に行く余裕もないのだろう。 文字が読めなかったら、いい仕事につけない。 そうしたら、貧乏のまままで食べ物が買えない。
----------------------	---

- 留意点：  
 国別資料を使って、食料不足は、単におなかが減ることだけではなく、健康面、教育面、経済面にも影響を及ぼし、悪循環となっていることに気付かせたい。  
 (所要時間10分)  
 このように展開していくと、児童は、低所得国に対してネガティブなイメージばかり持ってしまう恐れがあるので、厳しい環境の中でも明るく、一生懸命生きる人々の姿をスライドやビデオなどで紹介できるとよい。  
 ④この問題は、地球全体の課題であることに気付かせ、解決への意欲を培う。

Q6 今、地球上では、この教室と同じように、全人口のおよそ半分の人達が食料不足に苦しんでいる。しかも、その数は、どんどん増えている。その人達がきみたちの仕事の仕方を知ったらどうだろう。また、いつまでも、一部の人がだけが、たくさん食べることができるだろうか。	今日みたいに、食べ物が少ない国の人達が、日本の僕たちの食事を見たら、とても腹が立つと思う。 そのうち、食料が足りなくなるとも思えない。 私達も、食べ物を大切にしなければいけない。 何かできることはないか。
--	---

# 6. 世界の食事

—中学生・高校生版—  
(シミュレーション)

## ○留意点：

低所得国の国名リストを示したり，人口増加率を比較したりして問題の深刻さに気付かせる。そして，この問題は，決して他人事ではないという意識を持たせたい。最後に，感想をワークシートに書かせる。（所要時間20分）

小学校5年生の児童を対象に，給食を使って実践してみた。食べ物が配られたとき児童はその格差に非常に驚いた様子で，後の話し合いでもその時の気持ちがよく表れていた。当然，日本に対する非難の声も大きく，やがて，それが自分たち自身に向けられるものだと気付き，問題の深刻さにか理解できたようだ。食べ物を使うということ，やりにくい面もあるが，児童へのインパクトは強いと言える。

## 1. ねらい

小学生版では，不平等な食料配分及び慢性的飢餓が人々の生活に及ぼす悪影響について理解させることを目的とした。ここではさらに，様々な統計資料を分析して，飢餓の原因について生徒たちに仮説を立てさせることが課題となる。言うまでもなく飢餓の発生には，歴史的な国際関係，経済関係そして国内の社会問題などが複雑に絡んでいる。このような世界の食糧問題の構造をより主体的にとらえ，解決への意欲を持てるようにしたい。

## 2. 対象 中学生～高校生

## 3. 時間 3～4時間

## 4. 準備（教師）

小学生版ではグループ単位で国を分けたが，より多くの国が食糧問題に関わっていることを認識させるために，1人1国を割り当てる。また，階層もより現実に即して，5つに分ける。

①国別，階層別資料（表5），（表6）

②国名札 \*生徒の胸に1枚ずつつける。階層別に色分けして1つの袋にいれ  
ておく。

③階層ごとの資料を記入する模造紙，マジックなどの筆記用具  
あとは，小学生版の②④⑤⑥⑦と同じ物を用意する。

## 準備（生徒）

小学校版と同じ物を用意する。

## 5. 導入

以下のこと以外は、小学生版と同じようにする。

- 小学生版では、クジを引かせたが、ここでは、1人ひとりに国名札を袋から取らせる。
- 教室を5つの階層に分け、同じ階層の生徒が集まるようにする。そこで、(表5)から模造紙に資料を写し、黒板、掲示板等に掲示する。

## 6. 展開

(1)、(2)は、小学生版と同様にする。(2)では、次の様な生徒の言動を取り上げると飢餓の構造を捉える上で役に立つ。

- 同じ階層内の食べ物の分け方について。国内の富の分配の問題につながる。
- 他の階層との食べ物のやりとりのついて。援助の問題につながる。例えば、余った分だけを援助に回すというやり方は真の援助と言えるか。
- 飢餓の原因に関する疑問。資料に基づいて考える。
- 飢餓状態におかれた人々の生活に関する疑問。スライド、ビデオ等を見せるとよい。

数字の資料だけでは判らない人間の姿を具体的にイメージすることができる。

(3)資料により、飢餓がもたらす生活全体に関わる悪循環について理解する。

資料は、(表5、6)の以下の資料である。

○1日のカロリ-摂取量 ○1日の蛋白質摂取量 ○飲料水を飲む割合

○医師1人当りの人口 ○平均寿命 ○乳幼児死亡率 ○識字率

これらの資料から、飢餓は一時的なものではなく、保健衛生面での遅れをともなっていて、一生にわたって人々の生活に悪影響を及ぼすものだという事に気付かせたい。また、識字率の低さは社会参加、就労の機会を狭めるものであり、この悪循環から抜け出しがたくする大きな原因になっていることを捉えさせた

い。

(4)資料に基づいて、飢餓の原因について仮説を立てる。

資料は、(表5、6)の以下の資料である。

○1人当りのGNP ○所得配分 ○経済援助受け入れ額 ○1日のカロリ-摂取量 ○1日の蛋白質摂取量

さらに次の事項についても調べてみるとよいだろう。

○宗主国と植民地 ○民主主義国と非民主主義国 ○農地改革の実施 ○対外累積債務 ○貿易品目

飢餓の原因としては、以下のことが考えられる。

①食料配分の不公平。世界全体では、食糧は不足していない。また、家畜用飼料や商品作物の栽培に食料を必要としている国の多くの農地が使われている。

②食料、開発援助が不十分、不適切である。最貧国への援助額は、必ずしも多くない。累積債務が増えるばかりの結果となっている。

③豊かな国々による資源の大量消費という不公平な事態。そして、それに依存している飢える国の貿易構造。

④政治改革や農地改革の遅れ。国内でも、一部の権力者に富が偏在している。

⑤開発計画の遅れ、不適切さ。

因

これらのことから分かるように、飢餓の大きな原因は私達先進国の側にもある。生徒たちがそれに気付けば、問題解決への思考、行動への第1歩になるだろう。

小学校版 6グループの配分 (表1)

国のグループ (所得レベルによる)	世界人口の割合
低所得国	3グループ
中一上位所得国	2グループ
市場工業国 (日本)	1グループ

中学, 高校版 生徒数45人の学級の配分 (表2)

国のグループ (所得レベルによる)	世界人口の割合	生徒数
低所得国	51%	23
中一低位所得国	14%	6
中一上位所得国	11%	5
東欧非市場経済国	8%	4
市場経済工業国	16%	7

小, 中, 高共通メニュー例 [1] (表3)

食べ物	低所得国	中一低位国	中一上位国	東欧非市場国	市場工業国
ビスケット	1/2枚	1枚	3/2枚	2枚	3枚
ゼリー			1個	3個	5個
飲み物	水1/4カップ	水1/2カップ	水3/2カップ	水1カップ	ジュース1カップ
デザート					1本

小, 中, 高共通メニュー例 [2] (表4)

食べ物	低所得国	中一低位国	中一上位国	東欧非市場国	市場工業国
パン	1/3個	1/2個	1個	1個	3/2個
サラダ			1/2杯	1杯	3/2杯
肉(ハンバーグ)			1/3	2/3	3/2
ポテト	1/2個	2/3個	1個	2個	3個
デザート					ケーキ大1切れ
水	1/2カップ	1カップ	3/2カップ	2カップ	2カップ
他の飲み物					牛乳1本

○小学生の場合は、低所得国, 中一上位国, 市場工業国の3種類にする。

○小学生の場合は、割り当てる国の食事に合わせて、種類や分量を加減してもよい。例えば、芋を多く食べる国には、パンを減らして芋を増やすなどする。

○低所得国, 中一上位国には、小麦粉などを混ぜて、変色した水を与える。飲料水が手に入らないことを表す。

○東欧非市場国, 市場工業国には、食器を必要だけ使わせ、残りの階層にはなるべく使わせない。

◎模擬体験としての有効性を高めるために、なるべく実際の給食などを利用して切実な問題として捉えさせたい。



国別データ (表6-1)

	低所得国			低所得国			中-概国
	ペリウジ	ハイチ	インド	中国	ケニア	インドネシア	
1人当りのGNP 1983年 (US\$)	130	300	260	300	340	560	
人口 (百万人) 1983年	96	5	753	1,019	19	156	
人口増加率 (%)	2.3	1.8	1.8	1.2	3.9	1.9	
農業生産増加率 (%)	3.2	0.7	2.2	3.5	3.4	3.7	
平均年齢 (才) 1983年	50	54	55	67	57	54	
千人当りの乳幼児死亡率83年	132	107	93	38	81	101	
医師1人当りの人口1980年	7,810	8,200	3,690	1,740	7,890	11,550	
造林面積増加率 (%)	40	31	52	—	25	32	
識字率 (%)	34	30	42	69	50	68	
1日当りの蛋白質摂取量 (g)	40	45	50	59	54	49	
1日当りのカロリー摂取率 (%)	83	84	93	109	88	111	
所得配分 出10% 出20%	32.0 6.2	—	33.6 7.0	45.8 2.6	34.0 6.6	—	
1人当りの労働力生産額 (US\$)	6.82	19.72	3.70	—	7.63	9.91	

参考文献:

[なぜ世界の半分が飢えるのか] スーザン・ジョージ 朝日選書257

世界の半分の人々が飢える原因がアグリビジネス (農業関連多国籍企業) の活動にあることを解き明かし、私達の食生活との関連にも気付かせてくれる。

[バナナと日本人] 鶴見良行 岩波新書

フィリピンでのバナナ生産の実態を明らかにし、私達が安価に手にいれるようになった背景には、アグリビジネスの強力な支配とそこで働く農民の過酷な労働があることを、現地での調査に基づき分かり易く説いている。

階層別資料 (表5)

階層 含まれる国	低所得国 77カ国(22ヶ国) チベット、ケニア、ガナ、エチオピア、タンザニア、スーダン、ギニア、シエラレオネ、ウガンダ、... 77カ国(12ヶ国) インド、ウズベクスタン、パキスタン、中国	中-低地位国 77カ国(14ヶ国) ナイジェリア、エジプト、モロッコ、ギニア、ジンバブエ、... 77カ国(10ヶ国) タイ、インドネシア、トルコ、フィリピン、中国(13ヶ国) ベトナム、ボツワナ、ジンバブエ、...	中-上位国 77カ国(7ヶ国) ブラジル、コロンビア、ペルー、ボツワナ、... 77カ国(9ヶ国) 韓国(8ヶ国) ブラジル、フィリピン、メキシコ、... 3-ロープ 韓国、トルコ、...	東欧非市場国 (8ヶ国) ロシア、東ドイツ、チェコスロバキア、...	市場工業国 3-ロープ(14ヶ国) イギリス、フランス、西ドイツ、スウェーデン、オーストラリア、日本、ニュージーランド
1人当りのGNP 1983年	260	750	2,050	5,480	11,060
人口 (百万人) 1983年	2,335	665	500	386	729
人口増加率 (%)	1.8	2.3	2.1	0.6	0.4
農業生産増加率	2.9	1.9	3.2	—	1.0
平均年齢 (才) 1983年	59	57	65	70	76
千人当りの乳幼児死亡率83年	75	87	59	19	10
医師1人当りの人口1980年	5,556	7,555	2,018	345	554
造林面積増加率 (%)	46	50	73	74	95
識字率 (%)	55	67	77	98	98
1日当りの蛋白質摂取量 (g)	52	54	72	101	98
1日当りのカロリー摂取率 (%)	105	109	119	133	133
所得配分 出10% 出20%	—	—	—	—	—
1人当りの労働力生産額 (US\$)	7.60	18.20	—	—	—

国別データ (表6-2)

	中一低位所得国			中一上位所得国		
	ナイジェリア	ペルー	インド	ブラジル	韓国	フィリピン
1人当りのGNP 1983年 (US\$)	770	1,040	1,240	18,80	2,010	2,070
人口 (百万人) 1983年	94	18	47	130	40	30
人口増減率 (%)	3.3	2.2	1.9	1.9	1.4	1.3
農業生産増加率 (%)	-1.9	0.9	3.4	4.2	1.5	1.5
平均年齢 (才) 1983年	49	58	63	64	67	70
千人当りの乳幼児死亡率83年	132	98	82	70	29	36
1人当りの人口1980年	12,550	1,390	1,630	1,140	1,440	430
安全な飲料水を飲む人 (%)	42	52	69	74	76	65
識字率 (%)	36	82	65	76	94	94
1日当りの蛋白質摂取量 (g)	55	59	83	59	85	113
1日当りのカロリー摂取率 (%)	104	90	122	110	125	127
所得配分 上位10%	—	42.9	40.7	50.6	27.5	35.2
下位20%	—	1.9	3.5	2.0	5.7	4.4
1人当りの総開発対比額 (\$)	1.29	8.40	18.75	15.46	17.43	18.74

[ 一本のパナナから ] 大津和子 国土社

前出の [ パナナと日本人 ] の内容を高校の社会科学の授業の中に取り上げた実践記録。

[ 食糧問題ときみたち ] 吉田武彦 岩波ジュニア新書

1 個のハンバーガーから私達の食生活から世界とのつながりについて考えさせ、南北格差や超大国の食料戦略など重要な問題にふれている。小学校高学年から読める。

[ 世界子供白書 ] 日本ユニセフ協会

世界各国の栄養、保健、経済、教育などの新しい統計が豊富に載せられている。またそれらを分析した南北問題に関する様々な解説もなされている。

国別データ (表6-3)

	中一低所得国		東欧非市場国		市場工業国	
	ナイジェリア	インド	インド	ドイツ	イギリス	日本
1人当りのGNP 1983年 (US\$)	25,70	5,790	7,010	6,400	10,120	14,110
人口 (百万人) 1983年	23	273	17	157	119	235
人口増減率 (%)	1.9	0.7	0.1	0.1	0.1	0.7
農業生産増加率 (%)	2.2	—	—	1.5	-1.6	1.4
平均年齢 (才) 1983年	69	69	71	76	76	75
千人当りの乳幼児死亡率83年	132	16	11	12	27	11
1人当りの人口1980年	550	270	520	340	780	520
安全な飲料水を飲む人 (%)	58	—	82	86	98	99
識字率 (%)	87	99	99	95	99	99
1日当りの蛋白質摂取量 (g)	103	100	104	105	89	106
1日当りのカロリー摂取率 (%)	143	132	145	140	124	137
所得配分 上位10%	22.9	—	—	28.1	22.4	23.3
下位20%	6.6	—	—	6.2	8.7	5.3
1人当りの総開発対比額 (US\$)	22.62	—	—	—	—	—

[ 世界の子どもたち ] 借成社 全12巻

豊富なカラー写真と楽しい構成で世界各国の子供たちの食事、学校などを紹介する。

スライド [ 地球の仲間たち ] [ 地球の仲間たち PART2 ] 開発教育を考える会

世界各国の人々や子供たちの生活を衣食住などのテーマ別に分かりやすく紹介する。

\* このほかにも、日本ユニセフ協会 03(583)4407, 06(371)8582では、いろいろな開発教育に関するビデオや、スライドを貸し出している。

# 7. ペーパーバッグ・ゲーム

## 1. ねらい

インドのカルカッタでは、多くの家族が路上生活をしている。この人たちは貧しく、ほんの一間の堀っ建小屋を借りることさえできない。子供たちも生き延びていくためには、何か仕事を見つけ出さなければならぬ。ペーパーバッグ作りは、その一例である。子供たちは古くなった練習帳を破ったり、新聞紙を使って袋を作り、店や街頭の物売りに買ってもらうのである。

ペーパーバッグ作りの簡単なゲームを通じて、発展途上国の人たちが失業のためどのように苦しんでいるのか、またいかに協力しながら生計をたてる努力をしているのかを理解する。

## 2. 対象 小学校低学年～高学年

## 3. 時間 1 時間～2 時間

## 4. 準備

ペーパーバッグを作るために古新聞（たくさん）、のり、ペーパーバッグの代金（1ルピー紙幣または硬貨）紙を切って作ったり、牛乳ピンのフタ等を代用する。1グループあたり50ルピーくらい準備すること。  
商品の価格一覧表（黒板に貼る）資料1、  
ワークシート（各グループに配る）資料2  
ペーパーバッグの見本 資料3

## 5. 授業展開

### 導入（説明）

インド最大の都会、カルカッタのスラムに住む人たちの多くは、失業してい

る。10歳の女の子マハラータのお父さんも決まった職業は持っていない。工事現場で働いたり、荷物運びをしたりしているが、仕事が無い時の方が多い。お父さんの収入だけでは、マハラータの兄弟5人が食べていくのもせいっぱいである。お母さんと子どもたちは、古紙で袋を作り生計をたてているが、カルカッタでは、多くの家族が袋作りをしているので、競争は激しい。そのうえ、近ごろ、お母さんが重い病気にかかり、働けなくなってしまった。

### ○留意点：

ビデオ・スライド等を利用してインド（カルカッタ）の様子やここに住む人たちの暮らしぶりを説明するとよい。（この部分の所要時間10分）

### 展開

#### (1) 買物メモの作成

4～5人程度のグループに分かれ、各グループを一家族の兄弟姉妹とする。（ネルー家・ガンジー家といった名前をつけるとよい）  
各家族で一日に買いたい品物を、商品の価格一覧表（資料1）の中から選び、その代金の合計を計算してみる。

Q1 あなたの家族のくらしはどうですか。

お父さん・お母さんは元気で働いていますか？

A お母さんが病気で、生活が苦しい。お父さんは、失業している。

Q2 あなたの家族がどうしても買わないければならないものは何ですか？

A たべもの・お母さんの薬  
できれば毛布

できれば、買いたいものは何ですか？

Q3 買物メモに書かれた商品を買うには、何ルピー必要ですか？

A 〇〇ルピー

### (2) ゲーム

マハラータが作っているようなペーパーバッグを実際につくってみる。  
袋は、紙を折りたたみ、のりづけして作る。（袋の作り方を実演してみせる。）  
できあがった袋は、20袋1束で商人に売ることができ、1束につき1ルピー

一もえらる。したがって、1ルピーもうけるためには、20袋作らなければならぬ。きれいにできなかつた袋は買ってもらえない。

各家族ごとに、兄弟姉妹で協力して袋を作る。その他に、あらかじめ、商人役を1人決めておく。(袋を作る時間は約15分)

できあがった袋は20ずつの束にし、できあがり次第、商人に売って代金を受け取る。

作業が終わったらワークシートを作成する。支払われたお金を合計し、一日いくらくらいもうかるのかを計算してみる。買物メモとてらしあわせ、もうけたお金をどのように使うか考えてみる。

カルカッタで大人が一日暮らすには、だいたい一人6〜7ルピーが必要。したがって、4人家族では、少なくとも一日25ルピー必要。ただし、これは生きて行くための最低限である。

○留意点：

平均的グループで、1分間1個の袋が作れるよう、袋の作り方をアレンジするとよい。

(3) ディスカッション 話し合いをすすめるために下記のような発問をしてもよい

Q 4 一日暮らしていくのに十分なだけの A Yes/No

袋を作ることができましたか？

Q 5 グループのメンバーで役割を分担し A Yes/No

て仕事をしましたか？

(紙をたたむ人、のりをつける人等)

Q 6 インドの子供の暮しについてどう

思いましたか？

(この部分の所要時間10分)

○留意点：

どのグループがペーパーバッグを最も多く作ることができたか。それはなぜかなどを考えることにより、人々が家族で協力しながら生計を立てていることに気づくようにする。



資料1 (単位；ルピー 1ルピー=約12円)

食物	数量	単価	合計
野菜	1キロ	2.00	0.50
米	1キロ	3.00	87.00
卵	1ダース	6.00	(デリー・カルカッタ往復)
牛乳	1リットル	2.00	カルカッタ市バス
小麦粉	1キロ	2.00	0.30
鶏	1羽	20.00	衣類
バター	1キロ	30.00	ズボン
オレジン	6こ	2.00	シャツ
バナナ	6本	1.00	サリー(安価なもの)
紅茶	1杯	0.50	サンダル(安価なもの)
医薬品			その他
診療代	4.00		毛布
アスピリン	0.05		借家料(1ヶ月)
抗生物質	50錠	5.00	携帯用石油ストーブ
咳どめ	1瓶	1.00	灯用石油1リットル
			シチューなべ
			せっけん1キロ

資料2 ワークシート

[ ] 分間に作った袋の数 [ ] 個

したがって

1 時間に作った袋の数 [ ] 個

したがって

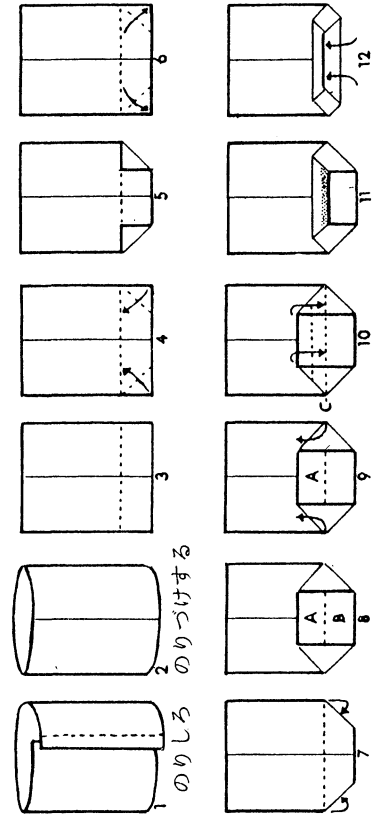
1 日 8 時間働いて作れる袋の数 [ ] 個

ただし、1 束 (20 袋) 単位でしか売れないしたがって

1 日の賃金は [ ] ルピー

(1 束 20 袋 / 1 束 = 1 ルピー)

資料3



# 8. 逃れてきた人たち

—「難民」—  
(ロールプレイ)

## 1. ねらい

難民条約では、「人種がちがう、宗教がちがう、国籍がちがう、政治についての意見がちがう…などを理由に迫害されて、自分の国を出た人たち」を「難民」と定義している。しかし、現代では、「戦争や内乱によって、あるいは経済的困難や自然災害の発生のために生存が脅かされ、他の国に逃げ込んだ人たち」をも「難民」としている。

近年、日本でもインドシナ難民（ベトナム難民）の定住等をめぐってさまざまな問題が生じているが、難民に対する理解・関心は、他の先進諸国に比べてまだまだ低い。

難民問題の解決は容易ではないが、国際化の進展の中、難民に関心を持ち、人権問題としてとらえていくことが大切である。

## 2. 対象 小学校高学年～中学生

## 3. 時間 2 時間程度

## 4. 準備 「難民」

「難民」が写った写真（ピクチャーマナリスス用）

「難民」についての簡単な説明（資料1）と実例（資料2）

ワークシート（資料3）

## 5. 授業展開

導入

(1)ピクチャーマナリスス 「難民」の写真を見て感じた事を話し合う

Q1この人（たち）を見てどう思いますか？ | A きたない、かわいそう

Q2この人（たち）はどんな暮らしをしているのでしょうか？	A 貧しい、食べ物が少ない家がない
Q3この人（たち）はなぜそのような暮らしをしているのでしょうか？	A わからない、戦争
Q4この人たちが何と呼ばれているか知っていますか？	A YES / NO
Q5身近に難民の人はいますか？TVや新聞で難民についての報道を見たことがありますか？	A YES / NO

（この部分の所要時間15分）

## (2)難民についての簡単な説明と実例紹介

資料1・2 参照（この部分の所要時間15分）

## ○留意点 適宜、地理用語の説明を加えること 展開

### (1)ワークシートの記入

4～5人のグループに分かれ、各グループごとに資料2の「難民」の子どもの中から一人を選ぶ。

まず、各人がその子どもの立場になってワークシート（資料3）に自由に答えを記入する。そのあと、グループで答えについて話し合う。

○留意点 資料2以外に自分たちで集めた「難民」の情報に基づいてワークシートを記入するのによい。

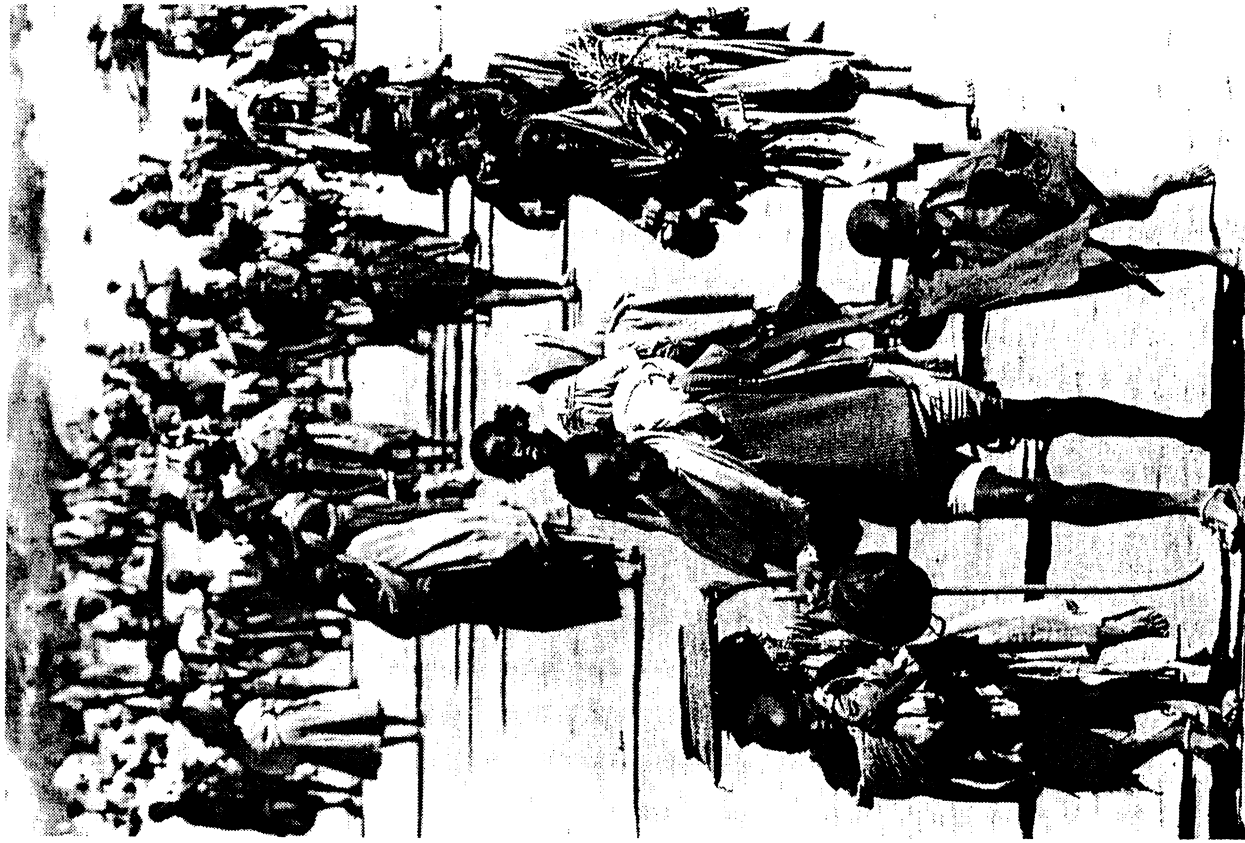
### (2)ロールプレイ

ねらい：「難民」の役を演じることによって、「難民」がおかれている困難な状況や、「難民」の気持ちを具体的に理解する。

登場人物：「難民」の子ども（各グループの代表一人）

国連の「難民」救済機関の調査員（一人、教師）

進め方：ワークシートに基づいて、調査員が「難民」から聞き取り調査を進



める。調査は、教室の前で一人ずつ行うとよい。

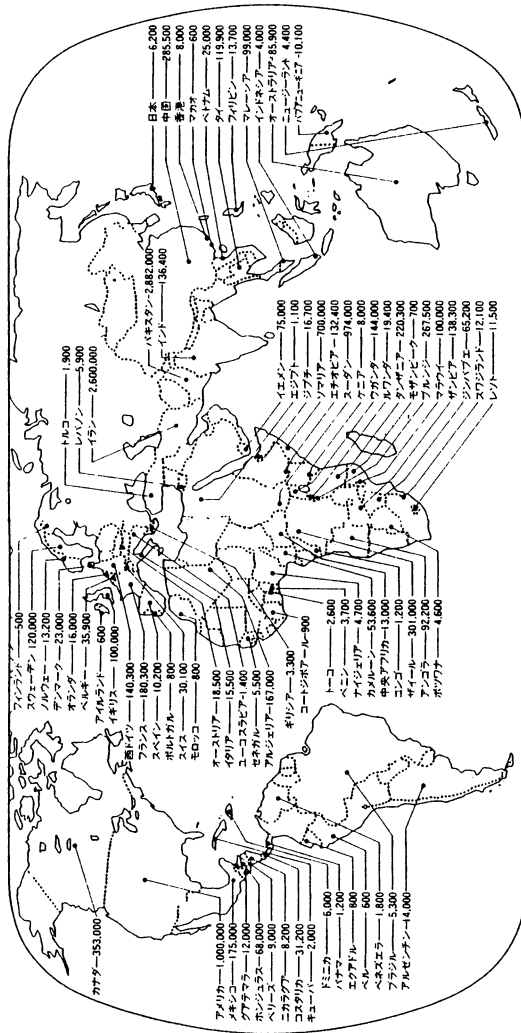
(この部分の所要時間 20分)

(3)グループでの話し合い

××××年、日本で大地震が発生し、各地の原子力発電所が壊れ、全国的に放射能汚染の危険が発生しました。あなたは、「難民」になり、全く言葉も通じず、知った人もいない外国へ逃れて来ました。

「難民」のあなたは、どのようにしてもらいたいですか？

(この部分の所要時間 15分)



世界の地域別難民数

世界難民地図 ― 故郷を離れた人びとは1200万人

「レフュジーズ」(UNHCR 駐日事務所 刊行)  
No. 10, Jan. - Feb. 1988より転載

犬飼道子 「飢餓と難民」 岩波ブックレットより転載

UNHCR(1987年1月調べ) 難民数は、各国政府の報告によるもの。日本の難民数は、定住者をふくまない。また、UNHCR(国連/ユネスコ)難民統計表(国連)の管轄下にあるパレスチナ難民はふくまれていない。  
\* 1988年1月、総数は1285万6340人に達している。

## 資料 2

## 地獄を見てしまった子どもたち

モザンビーク難民のアンセルモ兄弟

アフリカ南部のモザンビークは、かつて、ヨーロッパからおおぜいの観光客が訪れる美しい国でした。しかし、現在は、政府に反対するゲリラ組織（MNR）によって、鉄道や重要な施設は武力攻撃を受け、村々もおおそわわて内乱状態です。アンセルモ（12歳）とビンチ（10歳）の兄弟は1988年、長い道りを歩いた末、隣の国のザンビアのウクイミ難民キャンプにたどり着きました。2人はこう言います。「MNRが来て、村に火をつけたんだ。みんなで野原に逃げた。父さんが村に食べ物を取りに戻った。いつまでたっても帰って来ないのでさがいにくくと、父さんはMNRにさらわれて、重い荷物をせおわされて彼らの基地まで運ぶように命令されていた。僕らは、後をついていった。途中で父さんが疲れたからといって地面に倒れると、やつらはナイフで父さんを殺した。僕らは恐ろしくて逃げ出した。やつらは僕らのことはかまわなかった。ただ、荷物を運ぶ人が必要だったんだ。」この、ウクイミキャンプには、約3万人のモザンビーク難民が収容されています。15歳以下の子どもたちも10人に1人はアンセルモ兄弟のように肉親を殺された悪夢のような体験を持っているのです。

## 故郷のぶどうを食べたい

アフガン難民のリザ

リザは9歳のアフガン難民の少女です。アフガニスタンの村に住んでいました。お父さんは小学校の先生でしたが、戦争で何年も前から行方不明になっています。戦争が激しくなって、とうとう村に爆弾が落とされ、おおぜいの女性や子どもたちが死にました。祖父母とお母さんは村をはなれ、隣の国のパキス

タンへ逃げる決心をして、家財道具を売り払いしまいました。そして、リザや荷物を運ぶためにラクダを借りました。「恐ろしい旅だったわ。とくに、みつからないうように隠れている時は。夜、まっくらな中を岩だらけの山道を進んだの。途中で食べ物がなくなったり、私が一番小さいからと最後のぶどうを私にくれた」とリザは言います。今、リザ一家はパキスタン北東部の難民キャンプに、ある土の壁の家に住み、食糧や水、薬などの援助を受けています。しかし、難民キャンプの人たちは早くアフガニスタンに帰りたいと思っています。平和になったら、村に帰って、お腹いっぱいぶどうを食べるのがリザの夢です。

## 僕は整備士になりたい

カンボジア難民のジョップ

タイ東部のカオダイダン難民キャンプの朝は、まだうす暗いうちから忙しく始まります。国連から米や水、食料品、まきなどが難民に配給されるからです。13歳のカンボジア少年ジョップも、小さい体で家族5人分の配給を一生懸命、家まで運んでいきます。ジョップ一家は5年前に戦争のため、命がけでカンボジアから逃げてきました。キャンプの広さは、約1.5キロ四方。約2万人の難民が住んでいます。しかし、鉄条網で囲まれ、外にでることは許されず、働くこともできません。ジョップ一家は、一日も早くキャンプを出て、戦争のない自由な国に行きたいと思っています。そのため、何か技術を身につけようとして、ジョップはキャンプ内の自動車技術学校に通い始めました。キャンプの中には仕事を教えるための施設や病院、図書館が、世界各国の民間団体によって運営されています。ジョップは自動車技術学校の教室で、自動車のエンジンやオートバイをながめたり、さわったりするのが、一番の楽しみです。油でにぶく光る鉄のかたまりは、ジョップにキャンプの外の世界を想像させます。ジョップは、タイの町はもちろん、道路を走る自動車さえ見たことがありません。「キャンプの中をノロノロ走る車でなく、100キロのスピードで走る車を見たいなあ。早く、車やバイクに乗りたい。大きくなったら、整備士になるんだ。」



ジョップの願いが、かなう日はいつなのか、それは誰にもわかりません。

## 兄の分まで勉強したい

ベトナム難民のタン

ベトナムのタン君(15歳)は、中学3年生です。日本に来てから5年たちます。日本語も話せるようになったし、学校にもなれました。しかし、かぜをひいて熱がでると、ベトナムを小さな船で脱出した時のこわい夢を見ます。タン君はお父さんとお兄さん、弟といっしょでした。さいわい、陸地をはなれて1週間目に日本のタンカーに助けられました。そして、横浜港に着いたのです。「自由な国へ行きたい」と思っていた一家は、日本政府が「定住」(日本に住んで働くこと)を許可してくれた時は、みんな喜んで喜びました。しかし、言葉や習慣のちがう日本の生活は大変でした。タン君の一番悲しい思い出は、小学生の時です。先生やクラスの友だちは、日本語のわからないタン君に親切でした。でも、別のクラスの子どもたちは「バカ」とか「ベトナムに帰れ」とはやしたてるのです。「日本語は話したくても、まだ話せないんだ。帰りたいけども、お母さんのいるベトナムには帰れないんだ。」と言いかえしたかったです。言えなくて涙がポロポロこぼれました。お兄さんは日本に着いた時、すでに15歳をすぎたので、日本の義務教育を受けられませんでした。「定住促進センター」という難民のための施設で3か月間日本語を勉強して、メッキ工場につとめ始めました。勉強好きのお兄さんは、ベトナムでフランス語を学んでいて、法律の勉強をしたいと思っていたのですが、今はもうあきらめています。一生懸命働いて、タン君たち弟を高校に進学させたいと思っています。

「学校に行ける僕と弟は、兄の分まで勉強にがんばらなくてはいけないと思っています。でも、日本語による勉強は僕にとって大変です」と、タン君は話してくれました。

## 資料3 入国調査カード

名前 ( )

どこからきましたか

1 アジア ( ) 2 アフリカ ( )

3 その他の地域 ( ) ( ) 内は国名

なぜ難民になったのですか

1 人種・宗教・国籍・政治的意見の違いを理由とする迫害の危険があったため

2 戦争や内乱のため

3 貧困・飢餓・失業等の経済的理由

4 自然災害等により生活が困難となったため

5 その他

難民になってからあなたは、どんなめにあいましたか(具体的に)?

あなたの家族はどうなりましたか?

難民になって一番苦しかったこと、悲しかったことは何ですか?

いま、一番心配なこと、困っていることは何ですか?

これから、どのようにしたいですか?

# 9. 観光開発

(ロールプレイ)

## 1. ねらい

先進国からの観光客誘致による外貨獲得手段として位置付けられた発展途上国における「観光開発」がもたらす様々な側面を検討することにより、南北問題および文化相互の影響について考える。

強い円のおかげで海外旅行が国内旅行なみの手軽さと安さで行けるようになり、ここ数年海外渡航をする人々が増えつつ、まもなく年間で1000万人に達しようとしている。これらの日本人旅行者が海外で消費する円は、いまや日本の貿易黒字を解消する一つの方法として考えられるほど巨額になっている。つまり逆にいえば、日本人観光客（総じて先進諸国からやってくる観光客）は途上国にとって貴重な外貨獲得源と言えるのである。しかし、途上国の観光開発には、先進国の人々との文化の衝突、文化の破壊、途上国の社会に与える影響など問題はないのであろうか。海外旅行が身近になった現在、考えるに値する事がある。

なお、この授業は、「現代社会」において「現代の文化」との関連で取り上げることができる。また、日本国内のスキーマ開発、マリン・リゾート開発など地域活性化と伝統文化・伝統的（あるいは停滞的）生活との葛藤の問題としても扱うことができよう。

## 2. 対象 高校生

## 3. 時間 2 ～ 3 時間程度

## 4. 準備 I (教師)

- ①ターミナル駅や旅行代理店で海外旅行商品のパンフレットを集めておく。  
(教師用)
- ②生徒の調査用レポート・シート ……………資料1・2

- ③日本人の海外渡航者の急増を示す資料（新聞の記事から）……………資料3
- ④タイの貿易収支、観光収入、国民所得、売春などを示すデータ ……資料4
- ⑤観光地に住む人々の暮らしぶりを示す写真や資料 ……………資料5
- ⑥立場討議（ロールプレイ）用意シート ……………資料6
- ⑦人物名を書いた名札（立場討議用）

## 準備 II (生徒)

- ①4、5名のグループで活動し報告する。ターミナル駅や旅行代理店で、海外旅行のパンフレットを集め、行ってみたい世界の国・地域、期間、金額などを調べる。また、20万円以内で行ける観光地も調べておく。それぞれベスト5を掲げておく。
- ②20万円以内で行ってみたい観光地ベスト5について、旅行パンフレットをみて、その地域・国、金額、日数、宿泊ホテル、キャッチフレーズが喚起するイメージなどを調べ、レポート用シート（資料2）に記入する。
- ③同じく、その国の観光開発に必要な「資源」（自然資源、インフラストラクチャ、文化・社会資源）を旅行パンフレットから探し出して、レポート用シート（資料2）に記入する。

### ○留意点：

20万円はキャッシュ・ローン、ボーナス、貯金、アルバイト収入など可処分所得として支出可能な数字といえるので採用した。

なお、授業時間が不足している場合は、準備IIにおける生徒の作業を教師がしてあげてもよい。

## 5. 授業展開

### 導入

海外旅行が身近になったことを、渡航者数の増加や多様なパンフレットや新聞記事から実感させる。

- 発問(Q)・指示(P) 予想される答・学習活動 資料
- Q1 行ってみたい観光地はどこか? ・オーストラリア、カナダ、資料1  
アメリカなど
- Q2 20万円以内で行ける(行きたい)・ハワイ、グアム、ホンコン、資料2  
所(国・地域)ベスト5はどこか。 シンガポール、タイなど
- Q3 金額は、何万円代が多いか? ・10~20万円代、4~7日 資料2  
日数はどれくらいか?
- Q4 その数字は、私たちの生活でど ・すぐ工面できる。 資料2  
んな意味をもっているか。 連休・盆・正月を利用できる
- Q5 去年の海外渡航者はおよそ何人 ・1000万人(新聞記事を見る) 資料3  
か?

### ○留意点:

生徒たちは旅情漂う海外旅行パンフレットを集めている。生徒が事前に調べた資料を活用しつつ、旅行に行くつもりでどこがいいか探らせながら楽しく導入できればよい。また、この授業は実際に途上国に観光旅行をしたつもりになって考え話し合うものだということも、導入部ないしは準備活動の説明の段階で生徒に告げておく。

この部分の所要時間は15分程度。

### 展開

- (1) 海外旅行はなぜ私たちににとって魅力的なのかを考えさせる。

- Q6 海外旅行はなぜしやすくなった ・円高、余暇の増加、旅行会社の競争などのか?

- Q7 海外旅行の魅力は何か? ・歴史・文化・食事・買い物、資料2  
(観光や自然、異文化体験) 気候・海岸・快適さ

### ○留意点:

ふだんなにげなく、眺めている旅行パンフレットも振り返って分析してみると、そこには多くの魅力的要素(商品としての価値)が見出されるはずである。そのことに気づかせる。この要素は、「観光開発という授業テーマの発見」に連なっていくものである。この部分の所要時間は10分程度。

- (2) 特に途上国にとって、観光開発が持つ意味を考えさせる。

- Q8 20万円以内で行ける(行きたい)・3つぐらい 資料2  
所ベスト5に途上国はいくつあるか?
- Q9 どんな国があるか? ・香港、シンガポール、タイ 資料2  
インドネシア、台湾、韓国など
- Q10 途上国が観光客を誘致する為に ・ホテル建設、空港や道路の 資料2  
しなければならぬことはどんなことか? 整備、文化施設の設立など
- Q11 なぜ途上国の政府は、観光資源 ・輸出用産物・工業製品が少 資料2  
の開発を行い観光客を誘致する ない。貿易赤字の穴埋め・  
のか、考えさせる。 外貨の獲得

P12 タイに関する数字を見せる。

資料4

### ○留意点:

アジアの途上国の観光地が、金額20万円前後でいけるわが国の海外旅行大衆化時代にふさわしい地域であることを理解させてから、途上国において、観光開発（いいかえれば観光の魅力的要素）が単に自然発生的なものとしてではなく、自然資源、インフラ整備、社会・文化資源の開発として、国家的・人的に行われ、外貨獲得手段とされていることを発見させる。この部分は、「テーマの背後にある社会・経済的なつながりの分析」に相当するので、少し難しいかもしれない。生徒が集めてきたパンフレットの写真や資料2、資料4などから読み取らせるようにしたい。（分析的能力の育成）。この部分の所要時間は25分程度である。（1時間目終了程度）

(3) 途上国について、観光開発がもたらす功罪を考える。

- Q13 観光客が来て、途上国あるいは、お金、仕事など 途上国の人々が得るものは何か？
- Q14 観光客が来て、途上国あるいは、のどかさ、伝統など 途上国の人々が失うものは何か？
- Q15 失うものと得るものではどちら 失うもの／得るものが大きいだろうか。

○留意点：  
2時間目の導入部分にあたる。前時で学習したことがら（観光の魅力や途上国の観光開発の役割）を踏まえているので、生徒の予想を聞くような発問でよい。また、観光開発の功罪（Q15）についても判断がつかないだろうから、どちらを重く考えているか数かわかる程度でよい。ここでは深く突っ込まず、両面が考えられることに気づかせよう。この部分の所要時間は10分程度。

(4) タイを事例にとって観光開発の功罪について意見を交換しあう。意見を持った人物像を演ずること（立場討議）で、判断がつかない感情や願いについて

明確にしていく。

○立場討議（ロールプレイ）の手順：

- ①司会者を決める（1人）。意見が一方的にでないように調整する。時間調整と討議の報告もする。
- ②抽選をし、演ずる人物を決める（6人）。賛成（肯定）、反対（否定）同数とする。男女を組合せた方がよい。演ずる人物の名札を胸につける。役割シートを読んで各自の演ずる人物像、意見を把握する。各自のシートは人に見せない。
- ③討議の時間は15分くらい。

P16 立場討議の手順および状況設定 ・司会者、人物を決め、立場を説明する。役割シートを読みと状況を把握する。名札をつける 資料6

P17 観光地や村の様子がわかる写真 ・演技の前に臨場感を高める 資料5  
を見せる。

P18 所要時間を指示して始める。 ・討議を始める。

P19 各自がどんな感情を持ったのか ・観光開発の功罪とそれに関連するグループで話し合う。所要時間  
と話し合いのまとめを指示する。 つわる感情・価値を明確にする

P20 まとめを発表させる。 ・司会者の生徒が発表する。

P21 授業後の感想を書かせる。（こ  
れから観光で海外旅行をする  
きの心構えなど） ・態度変化を文章にする。

○留意点：

資料6にあるように、タイ、チェンマイ近郊の農村を舞台として、村の人々やタイ政府の行政指導員、そして日本人観光客を登場させた。また、状況把握や討議を活発にするために、写真を用意して臨場感を高め（資料5）、人物像

には性格などのできるだけ豊かなイメージを付与した(資料6)。(ビデオなどの視覚的な映像もあればなおよい)。

生徒はこのような授業形態には不慣れであろうが、討議を通じ、観光開発をめぐって様々の立場・感情や価値観の矛盾があることを明確にすることがねらいである。

所要時間は、手順の説明と人物の把握(P16、P17)が15分、討議(P18)が15分、感情・価値観の明確化(P19)が10分、グループ発表(P20)が20分、態度化(P21)が20分、合計80分程度である。従って、P19までで2時間目の終了とし、それ以後を3時間目に当ててもよい。

なお、立場討議はクラスの数によって、司会者と演技者で計7名、各グループで同時に演ずるやり方と1グループのみが演技し、他の生徒は観客となるやり方が考えられよう。前者は少人数の場合、後者は多人数の場合によりだろう。

タイを事例にとりあげた理由は、筆者が1989年3月に約2週間、神戸YMC Aの企画するチェンマイ近郊農村でのワーク・キャンプに参加したからである。この観光開発の授業案をつくる動機となったのも、そのキャンプにおけるタイ農村の人々やともに汗を流したタイの若者たち、そしてチェンマイYMC Aの現地スタッフとの話合い、見学などで多くのことを学んだ体験がベースになっている。このように、状況や人物設定にはスグディ・ツァーなどの体験があればより具体的になるが、テレビの報道特集、NGOスタッフやジャーナリスト、商社マンなどのレポートに注意することで、「悪しき体験主義」から脱することとはできよう。

参考文献:

Robert Prosser; Tourism.

今谷順重「新しい問題解決学習の提唱」1988.6(きょうせい)

\* 社会問題型の授業を構成する際に必要な共感や価値の明確化を構造化していく時に参考となる。

視聴覚資料:

NHK「文明人がやってきた…パプア・ニューギニアの旅」45分、1989

\* オーストラリアで製作されたもの。ツーリズムの問題点がよく指摘されている。テレビ朝日ニュースステーション「特集アジアの事件簿…タイのエイズ・キャンペーン」15分、1989

\* タイの観光政策と売買春の問題、地方農村からの出稼ぎ状況などが報告されている。

資料1 行ってみたい夢の観光地 ペスト5!

	地域・国	金額	期間
①			
②			
③			
④			
⑤			

資料 2 20万円あったら... 観光地

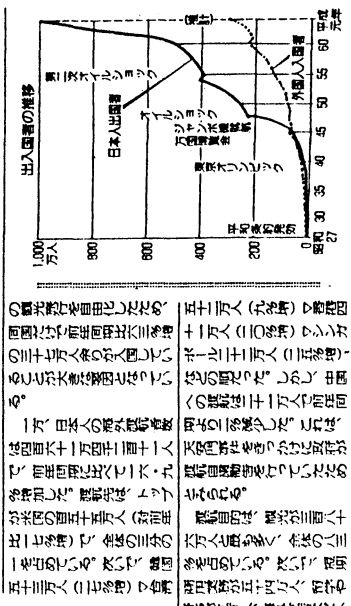
商品名	天使の都カホロチーゴ 北方のガラチェンマイ
パック名	JALPAK
旅行主催会社	JAL
国名	タイ
観光地	バンコク チェンマイ
金額・日数	19.6万円/6日
航空機	JAL
ホテル	シャングリラ チェンマイ・オーキッド
観光イメ	仏教 歴史 象公園 タイダンス タイ料理 買い物 象キャンプ
自然	象キャンプ
社会	寺院・王宮
文化	工芸品
資源	ダンス・音楽 料理
インフラ	ジョージアセンター
ストラク	空港
チャア	鉄道 バス 水道 ホテル

資料 3 ... 「海外渡航者1000万人時代の到来」 朝日新聞 1989.10.1

海外渡航者1000万人時代の到来... 1989.10.1 朝日新聞

海外渡航者1000万人時代の到来... 1989.10.1 朝日新聞

海外渡航者1000万人時代の到来... 1989.10.1 朝日新聞



# 海外1000万人時代

## 今年前半 16.9%増え461万人

法務省発表  
入国も最高

資料 4 タイに関する数字  
(チーフ出典:「日本国勢協会 89」神戸新聞「89.8.19-21」付  
丸紅広報部・藤永隆弘編著「タイ今」ダイモト社  
テレビ朝日「ニュース・ステーション」)

①人口	約5200万人 (86年) バンコク 600万人 チェンマイ (3相) 15万人	*日本
②国民所得 (1人当たりGNP)	86年 \$700 (10万円) → 88年 \$1040 (14万円) → 1.5倍 88年 バンコク \$2800 (40万円) 駐 \$500 (7万円) (年別最低 月2万円) (月別:平均 \$87=1.2万円 バンコク \$230(3.3万円) 駐 \$42(6千円)	12000万人 \$14000 .
③経済成長率	87年 7.1% → 88年 11% → 89年 10% (予測)	17万円 4%
④貿易(85年)	輸出 約71億ドル (米/野菜/畜産/機械/造船/自動車) 輸入 約92億ドル (-21%削減) 88年 約30億ドル (買付外債増)	18→30 -12 (87年)
⑤観光収入	*売春婦(夫) 86年 70万(10%) → 87年(統計) 100万 *エイズ患者 10年3000人 25歳以下 年少労働者 170万人	

資料5…観光地や農村の様子

○次のような写真を使用

1. タイの寺院
2. タイの民族舞踊と民族衣装
3. タイ式デザイナー
4. タイの伝統音楽
5. 水かけ祭
6. ワークキャンプに参加したタイの若者
7. 農村の婦人たち
8. 農村の子供たち
9. 農村の家族
10. タイ農村の家屋
11. 部屋の様子
12. トイレの様子
13. 農村の水田
14. 農村の副業(畜産業)
15. チェンマイの夜の歓楽街(マッサージ・パラー)
16. パンコクの水上スラム

ラム

○地図

チェンマイ、パンコクの位置がわかるようなアジア地域の地図(旅行会社のパンフレットについているもの)

資料6

○立場討議のための状況設定

舞台：タイ・チェンマイ近郊の農村

登場人物：①オサプットさん：村の長老(男性)。

②トシマツさん：みやげ物店で工芸品の傘を作っている村の中年女性

③スーチャットさん：村を去ってバコクのホテルで働いている若い女性

④プラキットさん：最近仕事が見つかった村の若者(男性)

⑤ポーンチャットさん：政府派遣の行政指導員(女性)

⑥山田さん：社員旅行中の日本人観光客(男性)

時期：チェンマイのお正月(旧正月：4月13、14、15日)

行事としては有名な水かけ祭(ソンクラ)がある。

テーマ：観光は村(村人)を豊かにするか。

観光によって得るものと失うもの、どちらが大きだろうか。

進め方：司会者と役割を決める。(計7人)

各人物のプロフィールと意見を読み、人物像を把握する。

シートは人に見せない。

司会者は全部のシートを読んでおく。

司会者は、各人から意見をだしてもらい、話し合いになるように話し合う時間は15分とする。

写真やデータを話し合いの中で利用してよい。

○立場討議のための人物像と意見

①オサプットさん：村の長老(男性)

プロフィール

年齢55歳。年収は10万バーツ(約60万円、月5万円)。6人家族。村ではかなり広い農地を持っている。妻(50歳)、彼の後を継ぎ村で農業をする二人の息子(25歳、22歳)と村の繊維工場で働いている長女(27歳)、次女(21歳)、三女(19歳)がいる。性格は頑固であるが、信心深い仏教徒である。

意見

彼は村の長老たちの意見を代表している。彼は、村の伝統にたいして非常に

誇りを持っている。彼は、村人が貧しいことを知って、観光開発には反対である。彼は、伝統は村のものだけであると信じ、商業化されたダンスや工芸品は好まない。また、最近、この村の近くにできた象公園に日本人観光客が増えてきて、日本の有名な商社と航空会社が共同でホテルを建設するらしく、想像もつかないような高い値段で土地を買い、土地の値段が上がっている。いずれ、村の人たちが土地を買いたくても買えなくなってしまうだろう。彼は、お金や欲望が村人たちの伝統的な生活様式を破壊し、よそ者が村の経済を支配することを恐れている。大体、村の若者たちが、ホテルで見せている踊りや歌は、外国人に迎合していて、村の伝統的な様式から離れていっているのではない。観光開発は村の自然や文化を破壊するものである。

② トシマツトさん：みやげ物店で工芸品の傘を作っている村の中年女性  
プロフィール

年齢 40 歳。年収は 1 万バーツ（約 6 万円、月 5 千円）。5 人家族。村の近くの傘工場で観光客相手の伝統傘を作っている。夫（42 歳）、二人の息子（18 歳、15 歳）がいるが、長男はチェンマイ市内のホテルでバンド・ボーイとして働いている。また、一人の娘（13 歳）がいる。明るい性格だが、物事を真剣に考えるタイプである。

意見

彼女はどちらかといえば、観光開発に反対である。彼女は、傘のほかに漆塗り工芸やタイシルクなど、多くの手作り工芸品が商品化され、それらを欧米や日本の観光客が買うことを知っている。また彼女の息子がホテルで働いているように、観光客向けのバーやレストランができることは、仕事が増えて喜ばしいと思っている。

しかし、観光客は冬の乾期には多いが、熱くて雨の多い夏にはかなり減るので、その時彼女たちは仕事がなくなくなる。それに観光客が多い時でも観光客の落とすお金は、みやげ物店やバーやレストランの経営者の懐に入り、彼女たちは 1 日に 1.5 時間以上働いても収入はわずかだ。

最近、村人の家に急速に備付けられたテレビを通じて、お金で買えるもの、消費文化へのあこがれが若者に蔓延している。彼女は、自分の娘が、村の若い娘たちと同じように外のきらびやかな世界に魅せられ、村を離れることを恐れている。また息子たちが、村の男たちと同じように、観光客相手の現金収入に目を奪われ、農業をないがしろにすることも恐れている。また貧しい家庭は娘を簡単に売ってしまう。娘たちは都会で売春するしかないのである。

彼女は今真剣に村の浮来について考えている。

③ スーチャットさん：村を去ってバンコクのホテルで働いている村の娘  
プロフィール

年齢 20 歳。年収は 3 万バーツ（約 18 万円、月 1 万 5 千円）。きょうだいは 5 人。4 人姉妹の長女。一番下は弟。両親は農業をしているが、土地を他人から借りている小作人で、年収はごくわずかである。彼女の仕送りが頼りである。やさしい性格で、親思い、兄弟思いである。彼女は貧しい家族を助けるため、チェンマイよりも仕事の機会が多いバンコクに働きに出ている。今は、お正月の休み（2 日間）で帰省している。

意見

彼女は、バンコクのヒルトン・インターナショナル・ホテルのルーム・メイドをしている。もっと収入のあるフロントの仕事をやりたいと思うが、英語のできる外国人がなってしまう。収入はわずかの給料と観光客がくれるチップだけである。ヒルトンのように外国の会社が経営するホテルには、多くの外国人観光客が滞在しているが、経営者はタイ人ではないし、支配人もタイ人はなれない。結局彼女たちのように、ルームメイドやウェイトーぐらいしか仕事が終わってこない。

外国人は外国の飛行機でバンコクにきて、外国から輸入したステーキやワインを飲んだり食べたりする。多くの外国人観光客がタイに来て、これで豊かになれるのだろうか。



村から働きに出てきた女の子たちの中には、会社を辞めて、観光客相手に売春をしている人もいますが、彼女はいくら稼ぎが大いからといって、そのような仕事はしたくないと思っている。同郷の若い女の子たちが売春をしているのは忍びないけれど、結局、観光で収入を多くするためには、直接的にお金が入る売春をすしかなないのである。政府は貿易赤字を埋め、観光収入を増やすために、彼女たちの売春を黙認しているのではないかと思う。一生懸命働いて田舎の家族に仕送りしている彼女だが、バンコクに出てくればもっと収入があると思うとただで、収入も仕事も少ないので政府の観光開発には疑問を感じている。

④ プラキットさん：最近仕事が見つかった村の若者（男性）

プロフィール

年齢 25 歳。年収は 1 万バーツ（約 6 万円、月 5 千円）。きょうだいは 6 人。3 人兄弟の三男。姉妹は 3 人。上の姉は嫁いで村にいますが、下の妹二人（20 歳、18 歳）はバンコクに出て、日系企業（繊維関係）で働いている。長兄（30 歳）は狭いながらも土地を持ち、村で農業をしている。次兄は軍隊に入っている。明るくて、友達づきあいいもよい。小さなことにはこだわらない性格である。

意見

長兄は両親と共に農業をしているが、弟は土地を持っていないので、仕事を必要としている。しかし、幼なじみも多いので村には残りたいと思っている。だから、次兄のように軍人になるつもりはない。彼はダンスがうまいので、チェンマイのホテルで観光客相手に民族舞踊を見せるような仕事が見つかった。来月からもっと収入が増え、両親に対して肩身の狭い思いをしなくてすむ。政府の観光開発のおかげで、観光客を誘致するために新しい道路が作られたし、10 年前と比べるとずいぶん便利になった。また、ホテルやレストラン、ディスコ、バーなど今までになかった仕事も生まれている。この村だって、ホテル

に必要な野菜や牛乳など農畜産物を提供できるようになって、副収入も増えた。それに、カカトでも英語を覚えるとドイツ人、アメリカ人、イギリス人、オーストラリア人、そしてアジアでずいぶん発展している日本人などの観光客とつきあえる時もある。彼らの考えに触れることができる。ブツダの心を敬い、王を尊敬するタイ人の素晴らしい文化や考え方を伝えることもできる。だから今の仕事は楽しくやっていると聞いてほしい。

このように暮らしを便利にし、村を出ていかなくてもよいような仕事を与えてくれるので、彼は政府の観光開発には賛成である。

⑤ ポーンチャットさん：政府派遣の行政指導員（女性）

プロフィール

年齢 27 歳。独身。年収は 10 万バーツ（約 60 万円、月 5 万円）。バンコクにある有名国立大学チュラロンコン大学を卒業して、タイ産業省農村開発課に勤務し、この村の観光開発について派遣されてきたエリートである。物事ははっきりとさせていくタイプで、合理的思考の持ち主である。

意見

タイは、アセアン諸国の中ではこの数年最も経済成長率が高い国である。なかでも首都バンコクは活気に満ち、急速に工業化している。しかし、タイにとっても大きな問題は地方の農村の停滞であり、地方からの出稼ぎ者があまりに多いことである。したがって、農村に人口をつなぎ止めるためには、単に農業の振興だけでなく、村人たちが仕事を求めて、少しでも現金収入が増えることが大切なことである。しかし、大規模な工業化は地方では不可能であるから、村の伝統的な生活文化や手工業を観光化することが一番の近道ではないかと考えている。

地域行政のレベルで考えても、観光によって得られた収入で、象公園のような自然公園ができるし、野生動物の保護もできる。さらに、寺院を修理し、文化遺産の保護にも役立つ。外貨収入が少くない政府にとって、観光収入は、貿易

赤字の解消や累積債務の返済の資金になる。また工業化の投資などにも使うことができ、それによって新たな産業を興すことができるのである。

観光産業こそ、この村の停滞を救い、さらに国家の発展に寄与するものである。

◎山田さん：社員旅行中の日本人観光客（男性）

プロフィール

年齢27歳。年収は600万円（月50万円）。自動車関係の会社に入社して5年目。会社創立30周年を記念して、タイ（バンコク、チェンマイ）旅行が企画された。総勢100名の団体である。ヒルトン・ホテルに宿泊している。性格は温和で人がよい。観光コースに入っている傘や漆塗りの工芸品の店にやってくる。

意見

タイは貧しい。1バーツ＝6円だが、物価の実感的な感覚からいえば10分の1ぐらいに感じられる。だから、日本人が観光でいけばいくほど、多くの円がつかわれタイの人々の収入となるので、この国の観光開発には大賛成である。それに、ナイト・バザールも完備しており、ナイト・バーやレストランも思ったほどひどくなかった。タイの寺院を見たり、古都チェンマイでは民族舞踊を見た。タイ式の食事もエキゾチックな雰囲気でも面白かった。買い物も、バンコクではブランド物、チェンマイでは工芸品をかなり安く値切った。

日本の旅行社の添乗員も、100名の団体、特に女性社員には買い物、男性社員にはナイト・バーなど歓楽街の案内など、自分たちは何もしなくてもいいようによく動いてくれた。日本語のできるタイ人の女性ガイドも「微笑みの国」というだけあって魅力的だった。今回はほんとに、買い物も寺院も遊びも満喫した。

来年は、婚約者と結婚の予定なのでハネムーン旅行で、ハワイよりも異文化の香りがして、梅がきれいなタイのリゾート地・パタヤビーチに来ようと思

う。日本の若者には今タイがトレンドデューだそう。街で見かける自動車など自社製品も含めてほとんどが日本製だし、円が強いので、タイのものなら何でも手に入るのではないかと思う。

# 10. 援助 (ランキンク)

## 1. ねらい

我が国の政府開発援助費 (ODA) は、1989年度で約 1 兆 4000 億円、世界でも最大規模であり、およそフィリピン一国の国家予算に匹敵するといわれる。国民 1 人当たりに換算して年間 1 万 2000 円の税金を負担していることになるこの多額の資金はいったいどのように使われているのだろうか。援助の効果とともに大変注目される場所である。

この授業では、第三世界の貧困問題を解決するために、種々のタイプの援助の効果の評価し、望ましい援助を考えさせるのがねらいである。ただ、この授業は、ODA の意味やしきみ、その使われ方と問題点、海外青年協力隊の活動、非政府間援助組織 (NGO) の活動など、援助・協力に関する基本的な理解を深めてから実施するのが望ましい。

この授業は、学校では「現代社会」における国際協力の項目や「地理」における水産業や世界の諸地域 (ラテンアメリカ) の分野で行うことができるだろう。

## 2. 対象 高校生

## 3. 時間 1 ～ 2 時間

## 4. 準備 (教師)

- ① ペルーおよびチンボテの位置を示す地図 …………… 資料 1
- ② ペルーの漁業に関するデータ (漁獲高、輸出先、魚類の種類など) …………… 資料 2
- ③ チンボテに住むペルー人の状況をとりあげた新聞記事 …………… 資料 3
- ④ 援助プロジェクト・カード 8 枚。切り離しておく。 …………… 資料 4
- ⑤ 真の援助についての説明 …………… 資料 5

## 5. 授業展開

### 導入

ペルーおよびチンボテを地図で探させ、ペルーの漁業についてデータをあげて説明する。そして、チンボテというペルーの町の生活について、これから学習することを告げる。

発問 (Q) ・指示 (P) 予想される答え・学習活動 資料

P1 クラスを 2 ～ 3 人ずつのグループに分ける。 グループに分かれる。

Q2 ペルーという国を知っている / 知っている / 知らないか。

Q3 どこにあるか、位置を確認さ ・地図を見る。位置を確認する 資料 1  
せる。

Q4 ペルーは漁業が盛んだといわ ・アーンチョビー  
れるが、どんな魚を知ってい  
るか。

Q5 その魚をペルー人は食べるの ・食べる / 食べない  
だろうか。食べないとすれば 魚粉にする  
どうしているか。

Q6 ペルーではアーンチョビー以外 ・加工業の方がもうけも大きく、資料 2  
にも魚が獲れるのに、なぜ魚 投資されている。  
粉や缶詰などの加工業が発達 欧米諸国の需要が大きい  
しているのだろうか。 食用魚の国内流通が少ない

P7 ペルーでも有数の漁港である ・地図を見る。位置を確認する 資料 1  
チンボテという町を確認させ  
る。

## ○留意点：

生徒たちはペルーという国やその産業については知っているだろう。しかし、彼らが知っているアンチョビの加工（ペルー→漁業→アンチョビ→魚粉という知識の連鎖）が私たちの生活とどのような‘つながり’があるのかという点については、思い至る者は少ないだろう。この導入部では、そのような‘つながり’を考えさせるための知識を確認する。この部分の所要時間は10分程度。

「地理」の授業（水産業やラテンアメリカ）で行う場合、この部分の導入は必要ない。

## 展開

(1) オーストラリアで発行されたペルーの漁港・チンボテに関する新聞記事を読んだ、私たちが食べる肉類とペルーの人たちの貧しい生活とが深い関わりがあることを知る。

- P8 「オーストラリアでこんな新聞記事を読む。記事を読む。資料3  
新聞記事がある」といって、チンボテの新聞記事を読みせ、読ませる。
- Q9 チンボテではどんな魚がとれるか  
・アンチョビ、まぐろ（ツナ）
- Q10 チンボテでとれた魚は何に利用されるか  
・かんづめ
- Q11 缶詰はどこへ輸出されるのか。  
・欧米諸国（カナダ・イギリス）  
また、誰が食べるのか  
・欧米諸国の人、猫
- Q12 魚粉についてはどうか  
・欧米諸国、日本  
牛・豚・鶏のえさ（家畜の飼料）

Q13 チンボテの缶詰工場で働く人たちの労働条件はどんなものか。  
・きびしい（長時間、低賃金、不健康）

Q14 チンボテは貧しいか。  
・貧しい

Q15 チンボテの人々は魚を必要としないだろうか。必要ならば、なぜ魚を食べられないのだから。  
・必要とする。  
・加工されて欧米諸国に輸出されるから。貧しくて買えないから。

Q16 私たちが缶詰や肉類を食べることチンボテの生活はどのような関係にあるのだろうか。  
・私たちの生活がチンボテの人たちの貧しい生活によって支えられている。

## ○留意点：

新聞の分析を中心に行う。スーパーに安売りしている缶詰や生徒たちの好きな豚肉などについて、「缶詰・肉類→ツナ缶・家畜のえさ→まぐろ・アンチョビ→ペルー・チンボテ→住民の貧しい生活・缶詰工場で働く人たち」というような逆過程をたどって、チンボテの人々の生活までたどることができればよい。この部分の所要時間は30分程度。「地理」の授業の場合は、P1～P7を省略している、P8が導入となる。

(2) 私たちの生活と深い関わりがあるチンボテの人たちに対する援助を検討する。

- P17 「これはオーストラリアで考えられた援助です」と言って、援助プロジェクトカードを読む。  
・援助プロジェクトカードを読む 資料4
- P18 チンボテの貧困を克服するために使われる8つの異なるタ  
・援助のタイプを知る。 資料4  
①教育上の援助 ②里親制度

イブの援助プロジェクトを説明する。

- ③食料援助 ④有償の経済協力
- ⑤労働組合支援 ⑥価格協定
- ⑦技術協力 ⑧生活様式の変容

クトのうち、1位と8位のプロジェクトに焦点を当てて、グループ内で容易に一致したかどうか、他のグループがどういう理由で何を選んだかについて、討議する。

いて再評価する

クラスで討議する

Q19 援助タイプ分析をする。

a. 貧困の原因を変えないで、チンボテの貧困をなくそうとするプロジェクトはどれか。

b. 持続的な解決をもたらすプロジェクトはどれか。

c. チンボテにおける変化が必要とされるプロジェクトはどれか。

d. 豊かな国における変化が必要とされるプロジェクトはどれか。

e. 互いに協力していかなければならないプロジェクトはあるか。

○留意点：

生徒たちにとっては、援助のプロジェクトの評価はかなり難しい作業であろう。そこで、ここでは、どのような援助のあり方が可能なかを知ること、また援助される側にとって役に立つ援助とはどのようなルールにもとづいて行われるものなのかを理解すること、を主眼に展開するほうがいいだろう。（「真の援助」については、6つのルールを取り上げて説明する程度でよい。）Q19についても、ひとつの解答例をあげているにすぎない。各々の援助のランクづけやクラス（グループ）内での話し合いは、ゲーム的な感覚で気軽に行うほうがいいだろう。

所要時間は50分。

P20 資料5にある「真の援助」を実現するためのルールを説明する。

- ・評価の基準（6つのルール）を
- ・評価の基準（6つのルール）を

なお、原典では、この授業の応用編として、生徒が援助組織（NGO）に対する募金をするために以下のような援助組織の紹介と評価を行い、生徒に選ばせるようにしている。

P21 援助プロジェクトを最も適切なタイプから最も不適切なものまで、各グループでランクづけさせる。

- ・グループで話し合う。
- ・グループで話し合う。

①イギリスの Oxfam やオーストラリアの海外援助協会 (Community Aid Abroad) のような一般的団体

②アムネスティ・インターナショナルのような人権擁護グループ

③カナダやイギリスの「開発教育センター」のような教育機関

④キリスト教会などの関係者

⑤「第三世界ショップ」のような市民グループ

⑥子供に手を差し伸べる里親グループ

P22 ランクづけがきたらグループごとにクラスに報告する。

- ・最良の援助と最悪の援助につ

日本の開発教育の現状を考えた場合、生徒たちの住む地域にあるNGOを訪問させたり、あるいは日本のNGOに問いあわせや資料の請求をさせ、発表させるような方法をとることもできる。日本のNGOについては、雑誌「UP date」No.20, 1990.2～3月号(ほんの木)に全国のNGO150団体が、岩崎駿介編著「地球人として生きる」(岩波ジュニア新書166, 1989.11)には東京のNGO12団体が紹介されているので参考になる。

y, 1988

参考文献

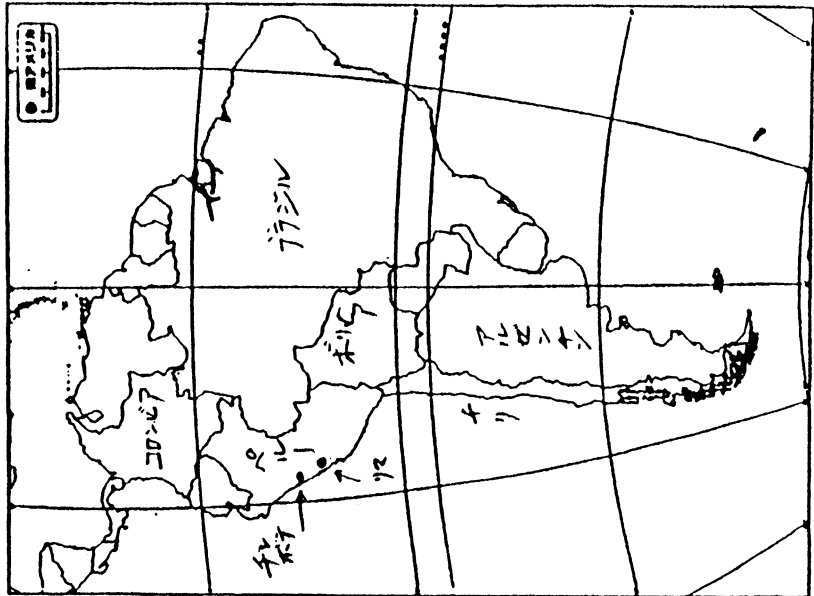
資料2: 「日本国勢図会」1989年版, 国勢社、

「世界の地理教科書シリーズ・ペルー」, 帝国書院, 1980

資料3: 新国際主義者'New Internationalist'148号, 1982.5月号

資料5: 開発問題の教育 Teaching Development Issues.

新国際主義者'New Internationalist'126号, 1983.8月号



資料1 ペルーおよびチンボテの位置

1. 漁獲高

1956年: 世界26位

1959年: 5位

1960年: 2位

1970年: 世界一の漁獲高(世界の19%)

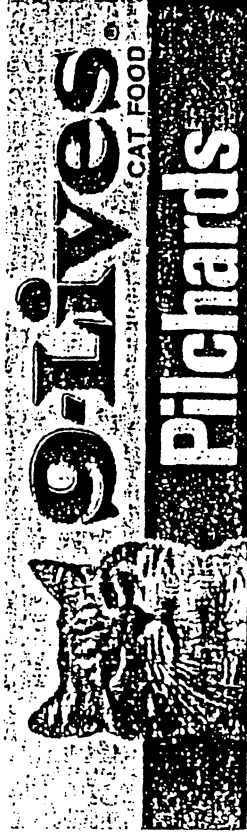
以後、海流の変化(エルニニョ現象)によって激減

1986年: 世界4位(世界の6%)

2. 漁獲物

アンチョビ(98.5%): 魚粉

かつお、まぐろなど10種類以上: 食用



資料 2 ペルールの漁業について

3. 漁業形態

- ① 食べるための漁業→総漁獲高の10%以下  
70年ごろまであまり活発でない。

ア) 停滞の原因

- a. 小さくて、エンジンも粗末で魚群探知機や冷蔵庫のような近代設備のない船
- b. 魚の水揚げ、保存に必要な設備が港にない。
- c. 魚を安くかつ新鮮な状態で配給する流通機構がない。
- d. 投資してももうからない

イ) 1970 - 1974年に、港湾、加工冷蔵施設や漁業流通センターができたため増  
加した。

- ② 加工するための漁業…総漁獲高の90%以上

ア) 発展の要因

- a. アンチヨビーが豊富であること
- b. 欧米における飼料用としての魚粉の需要が大きい。
- c. 大型で近代的設備を備えた漁船があること。

イ) 主な加工業

- a. 魚粉…家畜飼料
- b. 魚油…魚粉の副産物(せっけん、ラッカー、マーガリンなど)
- c. かんづめ…かつお、まぐろなど利用。日本などにおおされて衰退
- d. 冷凍…輸出
- e. 塩づけ…干し魚

チムボテ 自分たちの子供を養うことができず、イギリスの猫とカナダ人のために魚をと獲っている町。

1970年代の一時期、チムボテは世界で最大の漁港だった。それはペルールの沿岸からアンチヨビーが消え失せるまで続いた。しかし今でもその漁獲高は年間15万トンに達しているかかなりのものである。そして以前にましてより有用な種類(大部分がいわし、さば、まぐろ、にしんといった缶詰用の魚)がとれている。

この漁獲高のうちわずか0.6%のみがチムボテで消費され、20%がペルーで消費されるにすぎない。チムボテの大多数の人々は、彼らがとったものを買い余裕がない。そして新鮮な魚でさえも、リマのホテルからやってきた仲買人たちによって、彼らの目の前で買われていく。

西洋人にとって、缶詰の魚は、たぶん調理用食料程度でなんら特別なものではない。チムボテで獲れた魚の中には、私たちのスーパーに置いてあるキャットフードに使われるものさえある。この場合もキャットフードにするために、魚は完全にきれいにされない。

この蛋白源の大量の流出(缶詰の魚はどの食料よりも高蛋白の食べものの一つである)の背後には空腹に餓えた人々がいる。私たちの調査では、5歳以下の子どもの75%に何らかの栄養失調の兆候があった。

チムボテの人口の3分の1が失業中か潜在的な失業者である。わずかに8000人が缶詰工場でどうにか仕事にありついている。しかし、彼らの(大部分は女性)労働時間は長く、給料は低い。(1日におよそ1ドル)

女性によって労働条件はしばしば劣悪である。魚は保存のため工場に運ばれ

る前から、冷凍されている。だから工場の中はいつも寒く、湿めっぽい。魚は防衛布のために少しもムダにしないように女性たちはしばしば膝までどっぶりと水につかる。結核およびその他の気管支系の病気が非常に一般的である。

大部分の労働者は臨時雇である。雇用主（そのほとんどが外国企業に売りに出しているペルーの企業）は、3ヵ月以上の雇用契約を結んだ労働者に対して、法律で決められた給料や労働条件を守らなくしていくように、彼らを短期間の契約で雇う。

ほんの少数の人々しか組合によって利益を代表されていない。そして組合を設立しようとする人は失業を覚悟しなければならぬ。病気のために休みをとった者でさえ職を失うことが多いのである。失業者はつねに1000人以上いるのである。



#### 資料 4 … チムボテと援助プロジェクト・カード

##### 1. 意識の向上 (AWARENESS RAISING)

- ① 供与される援助：チンボテ市の教員たちへの資金
- ② 目的：チンボテ市が市の貧困の原因について教育することを援助する。
- ③ 利点：永久的な社会的経済的変化をもたらすことが可能である。貧しい人々が彼らの貧困に対する解決法を組織し始める。
- ④ 欠点：高度な技能を持つ教員が必要とされる。経済的・政治的権力者からの反対や敵意に直面する。合法的な援助への余分な基金が必要かも知れない。

##### 2. 子供たちへの資金援助 (CHILD SPONSORSHIP)

- ① 供与される援助：月々の現金を仕送りする。
- ② 目的：貧しい家庭より選ばれた子供たちに食糧、健康、教育を提供する
- ③ 利点：現金を仕送りした国の提供者に手紙や写真と満足感を与える。何人かの子供たちは貧困ラインを脱出することができる。
- ④ 欠点：手紙の翻訳や返書に費用がかかる。供与される子供とされない子供を生みだし、両家族間の不平等を助長する。供与される子供によってこの援助に対する依存を生み出す。チムボテにおける問題の解決にならない。

##### 3. 緊急食糧援助 (HAND OUT)

- ① 供与される援助：貧しい家族への緊急食糧援助。
- ② 目的：栄養不良と幼児死亡率を減らす。



- ③利点：この企画が続く間は、それら少数の家族は食糧援助を得られる。健康が改善される。
- ④欠点：受益者は「物乞い」の精神を身につけ、自分たちだけではやっていけないと思うかもしれない。

#### 4. 政府の援助計画 (GOVERNMENT PROJECT)

- ①供与される援助：近代的な魚缶詰工場建設のための外国借款(経済協力)。
- ②目的：輸出量の増加を通じてその国の輸出収入を増やす。
- ③利点：増加した輸出収入を学校や健康センターのような他の開発計画に使うことができる。
- ④欠点：魚の価格が下がって、輸出収入も下がるかもしれない。ローンは返済されなければならない。国の借款が増える。チンボテの問題解決にはならない。

#### 5. 自立援助 (SELF HELP)

- ①供与される援助：新しい缶詰労働組合の資金と事務所費用。
- ②目的：資金を持ち、活動する労働組合を確立する。
- ③利点：永久的な社会的経済的变化の可能性。労働組合はよりよい労働条件を通して社会的平等を増大させる。
- ④欠点：高度な動機づけと技能を持った労働組合スタッフを必要とする。工場所有者や政府からの反対に直面するだろう。資金が十分に上がる前に輸出に対する適正価格を必要とする。

#### 6. 水産物価格の国際的協定 (INTERNATIONAL FISH PRICE AGREEMENT)

- ①供与される援助：なし。
- ②目的：一次産品の国際的な協定を通じてより公正な貿易を行う。
- ③利点：恒常的な経済的变化の可能性。輸出収入の増加が開発のための資金を増やす。
- ④欠点：資金が開発のために使われるという保証はない。政治的・経済的平等のために使われる必要があるにもかかわらず、軍事に使われるかもしれない。すべての国がこの協定にサインしなければならぬ。

#### 7. 専門家派遣 (OVERSEAS EXPERTS)

- ①供与される援助：海外からの専門家の派遣
- ②目的：最善の方法で魚を缶詰にする工場をチンボテに作るために専門家がアドバイスする。
- ③利点：専門家にたいして資金を支払う必要がない。最新の方法を採用することができ。
- ④欠点：専門家のアドバイスはペルーの状況にとって適切なものではなく、チンボテの問題を解決することにならない。

#### 8. 援助国での教育 (PUBLIC EDUCATION PROGRAM)

- ①供与される援助：援助国の教師と教材に対する資金を提供する。
- ②目的：世界の貧困の原因に気づかせ、援助国の人々のライフ・スタイルが世界の貧困にどのような手を買っているかを多くの人々に気づかせる。

③利点：豊かな国の人々の多くが公正な国際貿易を要求し、第三世界からベトナム・インドを買ったことに疑問をもつなど、消費者的な習慣を変えらるることになる。

④欠点：高度な技能を持った教育者が必要。利益を守ろうとする多国籍企業や政府の反対に直面するかもしれない。

#### 資料 5 真の援助

援助はどのようにして改善されるべきか。

国際的な援助には多くの批判がある。それには、すでに知られているものもあり、それほど知られていないものもある。問題をより混乱させているのは、この30年間の公的政府間援助にもかかわらず、「北」と「南」の格差がより大きくなってしまったことである。では、なにながなされるべきなのか。援助が効果的でないから、すべての援助を停止することを認めるのか。後から効果があらわれような援助を飛躍的に増やすのか。それとも、援助計画を分析して、どれが成功し、どれが成功していないかを見分けるのか。1989年以来何年にもわたって、「開発ロビー」、特に国連のそれは、援助量の増大を求めてきた。今や、それらは一致して、たとえば「ほんとうの援助」を求めるように、援助の質を改善するよう求めている。「新しい国際主義者」の126項目には、「ほんとうの援助のための6つのルール」というタイトルがついている。6つのルールとは次のとおりである。

ルール1：最も貧しい人々のために援助がなされること。

援助は、世界人口の底辺の40%を構成する土地のない労働者や小作人、借地

農民および都市失業者たちとともに活動し、運営される開発プロジェクトを目標になされるべきものである。

ルール2：貧しい人々を動員すること。

貧しい人々は通常最も組織されていない人々であり、それゆえ最も無力であり、そしてそれが彼らが依然として貧困のままにいる理由である。貧しい人々が主導権をとり、彼ら自身を組織し、政治的に闘い、彼らの生活に影響を与える決定にたいして何らかのコントロールが得ることができるよう支援されるべきである。

ルール3：国に適した援助であること。

第三世界諸国の政府はそれぞれ異なる開発戦略を持っている。腐敗を減らし、貧しい人々に狙いを定めた開発を行うことに最も成功している政府は、たとえば中国、ベトナム、キューバ、ニカラグアのように「北」の西側諸国と政治的に提携していない政府である。もし援助の目的が貧困を減らすことにあるとすれば、その時強調されるべきことは最も効果のある国にたいして援助がなされるべきだけということである。

ルール4：援助機関を再構築すること。

ほとんど変わらないのではないのだが、最も効果的な開発団体は、例えば女性グループ、直接貿易市民グループ、協同組合、農民運動のような大衆組織である。政府対政府の援助では、そのような組織にながなっていく方向がかわらない傾向にある。これは、大衆の主導権の下で支えられている、たとえばOxfam, War On Want, Christian Aidのような国民的団体を通じたより公的な援助に移行するか、あるいは新しい国際開発機関を創設することによって、変わっていくべきである。

ルール5：偽の援助を止めること。

援助国の多くは、第三世界諸国政府と鉄鋼所、銅精錬所などを提供する契約を結ぼうとしている。自国企業に補助金を与えるために、その援助予算を使っている。これは真の援助ではないし、停止されるかあるいは他の予算でされるべきものである。

ルール6：独立の監査機関を持つこと。

援助国のプログラムは、定期的に、たとえば開発団体のような最も批判的で要求の多い大衆によって、かつ「南」の草の根レベルで活動している大衆によって査定されるべきである。

開発は、上からの「わずかなお恵み」ではなく、下から上に築きあげなければならぬ。真の援助は最も貧しい人々が自らの組織を作るよう助けることである。

#### 出典一覧

- 1 Global Bingo:Lyn Waddell, Learning for a Fairer Future, World Development Tea Cooperative & Lyn Waddell, Sydney, 1988
- 2 Winner Takes All:Anne Wilkinson, It's Not Fair!, Christian Aid, London, 1985
- 3 B A F A B A F A : 横浜 Y M C A ワールド・コミュニケーション・センター「アジアで遊ぼう地球で遊ぼう——国際理解ゲーム集——」1985
- 4 Dinner with the World:David Shyman, Teaching about Human Rights, Center for Teaching International Relations, University of Denver, Denver, 1988
- 5 Paper Bag Game:Anne Wilkinson, It's Not Fair!, Christian Aid, London, 1985
- 6 Refusees:Anne Wilkinson, It's Not Fair!, Christian Aid, London, 1985
- 7 The Problems of Tourism:Simon Fisher and David Hicks, World Studies 8-13, A Teacher's Handbook, Oliver & Boyd, Edinburgh, 1985
- 8 Aid:How Best to Help:Lyn Waddell, Learning for a Fairer Future, World Development Tea Cooperative & Lyn Waddell, Sydney, 1988

